

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 人間の尊厳と自立		教員名 菊池 伸哉	
科目時間数 : 30時間 (15 限)		授業の種類 : ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : ☒ 必修 ・ 選択	配当学年 :	年次 :	開講時期 : ☒ 前期 ・ 後期 ・ 集中
【授業の目的・ねらい】 人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身に着けるための学習とする。			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ① 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む ② 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける ③ 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 人間の尊厳と自立について、社会福祉の観点から概観する。日常的に発生している諸問題を意識して学生から自発的に課題提起させながら、障害者問題、高齢者問題を含めて発表させ授業を進める。			
【授業における達成課題】 介護実践を進めるに当たっての基本的観点である人間の尊厳について考える意義が理解でき、最終的には技術、知識そして価値の構造化と価値の重要性を説明できることを達成課題とする。			
【使用教材・テキスト等】 介護福祉士養成講座 第2版 1 人間の理解 (中央法規)			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率10%、授業態度10%、期末(修了)テスト80%			
【備考】 筆記試験は60点以上を合格とする。 授業態度については、ルーブリック評価を参考に評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内容】 社会福祉協議会での相談支援業務、研修講師等			

科目名			科目時間総数		教員名	
人間の尊厳と自立			30時間（15限）		菊池 伸哉	
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標			
1	限	1 時間	人間の尊厳と人権・福祉理念を意識して捉えることができる			
		2 時間				
2	限	3 時間	人権や尊厳に関する日本の諸規定を学び、重要性を意識することができる			
		4 時間				
3	限	5 時間	(上記継続)			
		6 時間				
4	限	7 時間	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 1 を理解し、説明することができる			
		8 時間				
5	限	9 時間	(上記継続)			
		10 時間				
6	限	11 時間	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 2 を理解し、説明することができる			
		12 時間				
7	限	13 時間	(上記継続)			
		14 時間				

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
8	限	15時間	人権尊重と権利擁護を学び、実践に生かすことができる
	限	16時間	
9	限	17時間	演習を通して設問の正誤を確認しながら理解することができる。また尊厳と自立についてグループワークを通して発言し、これまでの学習を通じて学んだことをグループワークで発言し合い、学びの確認ができる。
	限	18時間	
10	限	19時間	自立支援とは何かを理解す中で、質に高い介護を実践することができる
	限	20時間	
11	限	21時間	(上記継続)
	限	22時間	
12	限	23時間	(上記継続)
	限	24時間	
13	限	25時間	(上記継続)
	限	26時間	
14	限	27時間	演習を通して利用者の主体性を大切に助言についてグループで検討し話し合うことができる。また振り返りを通じて理解できない事項の確認を行い、本試験に向かうことができる
	限	28時間	
15	限	29時間	筆記試験
	限	30時間	

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 人間関係とコミュニケーションⅠ		教員名 會津 真子	
科目時間数 20時間 (10限)		授業の種類 講義・演習・実習	
必修・選択の別 必修・選択	配当学年 1年次	開講時期 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 人間関係のなかで自分と他者を理解するということを学ぶ 適切な人間関係の築き方、コミュニケーションの取り方を学ぶ			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ① 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 人間関係の築き方、コミュニケーションの取り方の基本を理解した上で、現場で使えるスキルとしての習得を目指す			
【授業における達成課題】 自分自身と他者の違いを理解できる コミュニケーションの特性や構造について理解できる 援助者としてのコミュニケーションを実践できる			
【使用教材・テキスト等】 介護福祉士養成講座 第2版 1 人間の理解（中央法規）			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率20%、授業態度40%、筆記試験40%			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有・無			
【内容】 スクールカウンセラーとしての実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
人間関係とコミュニケーション I		20時間 (10限)	會津 真子
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1 限	1 時間	オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する
	2 時間	//	
2 限	3 時間	自分と他者の理解	人間関係のなかでの自分と他者のちがいを理解する
	4 時間	//	
3 限	5 時間	発達心理学からみた人間関係	人の発達にともなう、人間関係の広がりを学ぶ
	6 時間	//	
4 限	7 時間	社会心理学からみた人間関係	人はどのように他者や集団とかかわりながら成長するのかを学ぶ
	8 時間	//	
5 限	9 時間	コミュニケーションの概念	コミュニケーションの特性や構造について学ぶ
	10 時間	//	
6 限	11 時間	コミュニケーションの手段	言語的・非言語的コミュニケーションについて学ぶ
	12 時間	//	
7 限	13 時間	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	人間関係の発展や後退とコミュニケーションのありかたについて学ぶ
	14 時間	//	
8 限	15 時間	対人援助における基本的態度	援助者としてのコミュニケーションの基礎について学ぶ
	16 時間	//	
9 限	17 時間	組織の条件とコミュニケーションの特徴	組織におけるコミュニケーションのあり方について学ぶ
	18 時間	//	
10 限	19 時間	まとめ	これまでの学習のまとめを行う
	20 時間	試験	テストを行う

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 人間関係とコミュニケーションⅠ (介護実践におけるチームマネジメント)		教員名 菊池 伸哉	
科目時間数：10時間 (5 限)		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択の別：必修・選択	配当学年：1 年次	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身に着けるための学習とする。			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ① 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 第1章の人間の尊厳と自立、第2章の人間関係とコミュニケーションを受けてチームマネジメントの意義について、社会福祉の観点から概観する。介護実践における諸問題をチームマネジメントから解決していく意義を課題提起させながら、障害者問題、高齢者問題を含めて発表させ授業を進める。			
【授業における達成課題】 介護実践におけるチームマネジメントの基本となる考え方を理解でき、更に最終的には重要性を説明できることを達成課題とする。			
【使用教材・テキスト等】 介護福祉士養成講座 第2版 1 人間の理解 (中央法規)			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率10%、授業態度10%、期末(修了)テスト80%			
【備考】 筆記試験は60点以上を合格とする。 授業態度については、ルーブリック評価を参考に評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】有・無			
【内 容】社会福祉協議会での相談支援業務、研修講師等			

科目名 人間関係とコミュニケーションⅠ		科目時間総数 10時間（5限）	教員名 菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1	限	1時間	<u>チームマネジメント</u> 介護実践におけるチームマネジメントの意義を理解するとともに、グループワークを通じて実践に繋げることができる
		2時間	
2	限	3時間	<u>チーム力・チームケア</u> ケアを展開するためのチームマネジメントを学ぶとともに、グループワークを通じて実践に繋げることができる
		4時間	
3	限	5時間	<u>OJT・Off-JT</u> 材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントの重要性を理解するとともに、グループワークを通じて実践に繋げることができる スーパービジョンの意義と有効性について理解し、言語化して説明することができる
		6時間	
4	限	7時間	(試験)
		8時間	
5	限	9時間	<u>組織の構造・機能・役割まとめ</u> 組織の目標達成のためのチームマネジメントを理解するとともに、グループワークを通じて実践に繋げることができる。
		10時間	

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 人間関係と コミュニケーションⅡ		教員名 我妻 信子	
科目時間数： 20時間（10限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 1年次	開講時期： 前期 後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 基本的な手話の知識・技術を習得することにより、聴覚障がい者への理解を深める。 手話によるコミュニケーションを可能とする。 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する内容とする。聴覚障がい者の講師による講義を受け背景と現状を知る。 【授業における達成課題】 手話の基礎を学び聴覚障害を理解し、聴覚障がい者との会話を習得し実践することができる			
	使用教材	出版社	
学生用	手話を学ぼう 手話で話そう	社会福祉法人全国手話研修センター	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率5% 授業態度10% 実技試験25% 筆記試験60%			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】 手話通訳・指導の勤務経験			

科目名 人間関係と コミュニケーションⅡ		科目時間総数 20時間（10限）	教員名 我妻信子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	人間関係の形成とコ ミュニケーションの基 礎	基礎的な手話を獲得し、自己紹介を通して聴覚障がい者との会話ができるようになる。 オリエンテーション 授業方針・授業の位置づけと理解 手話の基礎知識・特徴・7つのコミュニケーション方法	
2限 3時間 4時間		自己紹介ができるようになる。聴覚障がい者の生活を知るDVD（私の大切な家族） 手話実技 自己紹介 指文字 家族（父・母・両親・兄弟・・・）	
3限 5時間 6時間		サザエさん一家を活用して家族紹介（グループワーク） 家族実技試験（グループ）	
4限 7時間 8時間		数字（過去・現在・未来・誕生日・年齢・曜日・時間・金額…） 〃	
5限 9時間 10時間		趣味・スポーツ・季節・旅行会社・・・ 〃	
6限 11時間 12時間		ろうあ者講師講義 （聴覚障がい者と手話の歴史・講師の体験談・交流） 〃	
7限 13時間 14時間		地図・住所・出身地・自己紹介実技試験 〃	
8限 15時間 16時間		仕事（介護福祉士・保育士・教師・アルバイト・・・） 〃	
9限 17時間 18時間		介護施設での会話 〃	
10限 19時間 20時間		復習・筆記・実技試験 〃	

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 人間関係とコミュニケーションⅡ（点字）		教員名 古舘 直美	
科目時間数： 10時間 (5限)		授業の種類： <u>講義</u> ・ <u>演習</u> ・ 実習	
必修・選択の別： <u>必修</u> ・選択	配当学年： 2年次	開講時期： 前期 <u>後期</u> ・集中	
【授業の目的・ねらい】 視覚障害者の情報収集やコミュニケーション手段のひとつである「点字」の組立て等を理解し、その読解力等を身につけるための学習とする。			
【ディプロマポリシーとの関連】 ①.相手の立場にたてる感受性が身につき、豊かな人間性と心を育む ②.人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力が身につける ③.基本的な生活習慣とマナーが身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 視覚障害者のコミュニケーション手段のひとつである点字の歴史・組み立て・特徴・表記を、点字印刷物に触れる・点字を読む・点字器を使用して点字を書く体験を通して学ぶ。			
【授業における達成課題】 ・視覚障害者のコミュニケーション手段のひとつである点字について説明できる。 ・点字の組み立て、書き方の基本ルールを学び、点字器で点字を書くことができる。 ・身の回りにある点字を読むことができる。			
【使用教材・テキスト等】 ・『初めての点訳（第3版）』特定非営利活動法人 全国視覚障害者情報提供施設協会 ・点字一覧表 日本点字図書館			
【使用教室】 1. <u>HR</u> 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 1. 出席 10% 2. 授業態度 10% 3. 演習態度 10% 4. 提出物 10% 5. 確認テスト 60%			
【備考】 ・確認テストは、60点以上を合格とする。 ・確認テストは、教科書・ノートなど持ち込み可とする。			
【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> 無			
【内 容】 点訳奉仕活動・点字指導員として点訳奉仕員養成実務経験			

科目名 人間関係とコミュニケーションⅡ（点字）		科目時間総数 10時間（5限）	教員名 古舘 直美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	人間関係の形成 コミュニケーションの 基礎 <u>障害の特性に応じたコ ミュニケーション</u>	講習の目標・進め方について理解する 言語コミュニケーションについて学ぶ 自分の周りにある点字を確認する 点字の概要を学ぶ（点字の組み立て、点字の特徴）	
2限 3時間 4時間	〃	点字の歴史について学ぶ 点字の書き表し方を理解し、点字を読むことができる（単語） 点字を書く器具について学ぶ 点字器を使用して、点字を書くことができる（自分の名前）	
3限 5時間 6時間	〃	点字の仮名遣いについて学ぶ 点字の数字・アルファベット・記号について学ぶ 点字の書き表し方を理解し、点字を読むことができる（短い文章） 点字を書くことができる（短い文章）	
4限 7時間 8時間	〃	点字の分かち書きについて学ぶ 点字の書き表し方を理解し、点字を読むことができる（長い文章） 点字を書くことができる（数字・アルファベットを含む文章）	
5限 9時間 10時間	〃	点字印刷物・点字学習関係資料について学ぶ 街の中にある点字を読むことができる 点字に関する小レポートを作成することができる（確認テスト） 点字を読んで質問に答えることができる（確認テスト）	

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 社会の理解		教員名 菊池 伸哉	
科目時間数 : 60時間 (30 限)		授業の種類 : <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <u>必修</u> ・ 選択	配当学年 : 1年次	開講時期 : <u>前期・後期</u> ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 ・ 社会と生活の関連について理解する ・ 地域共生社会について理解する ・ ソーシャルワークの概念について理解する ・ 社会保障制度について理解する ・ 社会福祉各分野の動向、制度について理解する			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ① 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む ② 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける ③ 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 ・ 社会と生活の仕組み ・ 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 ・ 社会保障制度 ・ 高齢者保健福祉と介護保険制度 ・ 障害者保健福祉と障害者総合支援法 ・ 介護実践に関連する諸制度			
【授業における達成課題】 当該科目について、介護福祉士として必要な知識を習得する			
【使用教材・テキスト等】 介護福祉士養成講座2 社会の理解（中央法規）			
【使用教室】 ① <u>HR</u> 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率10%、授業態度10%、中間テスト30%、期末（修了）テスト50%			
【備 考】 筆記試験は60点以上を合格とする。 授業態度については、ルーブリック評価を参考に評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無			
【内 容】 社会福祉協議会での相談支援業務、研修講師等			

科目名		科目時間総数	教員名
社会の理解		60時間 (30限)	菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1	限	<u>生活の基本機能</u>	・生活の基本機能を理解する ・生活への接近方法を理解する ・社会生活のメカニズムを理解する ・家庭生活の機能を理解する
	1 時間		
2	限	<u>ライフスタイルの変化</u>	・生活と働き方の変化を理解する ・少子高齢化と健康寿命を理解する
	2 時間		
3	限	<u>家族の機能と役割</u>	・家族の概念とその変容を理解する ・家族の構造や形態を理解する ・家族の機能と変化を理解する ・家族間の多様化を理解する
	3 時間		
4	限	<u>社会・組織の機能と役割</u>	・社会・組織の概念を理解する ・社会・組織の機能と役割を理解する ・グループ支援、組織化を理解する
	4 時間		
5	限	<u>地域、地域社会</u>	・地域、地域社会、コミュニティの概念を理解する ・地域社会の集団、組織を理解する ・地域社会の変化を理解する
	5 時間		
6	限	<u>地域社会における生活支援</u>	・生活支援と福祉を理解する ・自助・互助・共助・公助を理解する
	6 時間		
7	限	<u>地域福祉の発展</u>	・地域福祉の理念を理解する ・地域福祉の歴史的展開を理解する ・地域福祉の推進を理解する ・災害と地域社会を理解する
	7 時間		

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
-------	---------------	-------------

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
科目名		社会の理解	科目時間総数 60時間 (30限)	教員名 菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
8	15時間 限	<u>地域共生社会</u>	・地域共生社会を目指す社会的背景を理解する ・地域共生社会の理念を理解する ・地域共生社会の実現に向けた取り組みを理解する	
	16時間			
9	17時間 限	<u>地域包括ケア</u>	・地域包括ケアの理念を理解する ・地域包括ケアシステムを理解する	
	18時間			
10	19時間 限	<u>社会保障の基本的な考え方</u>	・社会保障のイメージを理解する ・社会保障の意義と役割を理解する ・社会保障の目的と機能を理解する ・ライフサイクルからみた社会保障を理解する	
	20時間			
11	21時間 限	<u>日本の社会保障制度の発達</u>	・社会保障制度の歴史を理解する ・日本国憲法と社会保障を理解する ・戦後社会と社会保障の基盤整備を理解する ・国民皆保険・皆年金の確立を理解する ・社会保障の拡充を理解する ・社会保障の見直しを理解する ・介護保険と福祉の考え方の変化を理解する ・社会保障構造改革を理解する	
	22時間			
12	23時間 限	<u>日本の社会保障制度のしくみ</u>	・社会保障の実施体制を理解する ・社会保障のしくみを理解する ・年金保険を理解する ・医療保険を理解する ・介護保険を理解する ・雇用保険と労災保険を理解する ・各種社会扶助を理解する	
	24時間			
13	25時間 限	<u>現代社会と社会保障制度</u>	・少子高齢化を理解する ・財政問題を理解する ・給付と負担の関係を理解する ・持続可能な社会保障を理解する ・地方分権と社会保障構造改革の課題を理解する	
	26時間			
14	27時間 限	<u>高齢者保健福祉の動向</u>	・高齢者保健福祉の歴史を理解する ・人口の高齢化を理解する ・高齢者の健康保持と社会参加を理解する ・高齢者保健福祉における課題と展望を理解する	
	28時間			

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
-------	---------------	-------------

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と達成目標	
科目名 社会の理解				科目時間総数 60時間 (30限)	教員名 菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標		
15	限	29時間 <u>前期テスト</u>			
		30時間			
16	限	31時間 <u>高齢者保健福祉に関連する法体系</u>	・高齢社会対策基本法を理解する ・老人福祉法を理解する ・高齢者医療確保法を理解する		
		32時間			
17	限	33時間 <u>介護保険制度</u>	・介護保険制度創設の背景と目的を理解する ・介護保険制度のしくみの基本的理解を理解する ・介護保険制度における組織、団体の役割を理解する ・介護支援専門員の役割を理解する ・介護保険制度の動向を理解する		
		34時間			
18	限	35時間 <u>介護保険制度</u>	・在宅支援サービスの体系を理解する		
		36時間			
19	限	37時間 <u>介護保険制度</u>	・施設サービスの体系を理解する ・地域密着型サービスの体系を理解する		
		38時間			
20	限	39時間 <u>介護保険制度</u>	・介護サービスの情報公表制度を理解する		
		40時間			
21	限	41時間 <u>障害者保健福祉の動向</u>	・障害者福祉の現状を理解する ・障害者福祉の動向を理解する		
		42時間			

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
-------	---------------	-------------

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
科目名		社会の理解	科目時間総数 60時間 (30限)	教員名 菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
22	限	<u>障害者の定義</u>	・ 障害者の法的定義を理解する	
	43時間			
23	限	<u>障害者保健福祉に関する制度</u>	・ 障害者福祉の歴史を理解する ・ 障害者福祉の法律を理解する ・ 障害児に対する支援制度を理解する	
	44時間			
24	限	<u>障害者総合支援制度</u>	・ 障害者総合支援制度の目的を理解する ・ 行政の役割を理解する ・ 自立支援給付と地域生活支援事業を理解する ・ 財源と利用者負担を理解する	
	45時間			
25	限	<u>障害者総合支援制度</u>	・ 障害者福祉サービスの種類と内容、手続きを理解する ・ 障害支援区分の認定を理解する ・ 協議会と基幹相談支援センターを理解する ・ 相談支援専門員を理解する ・ 障害児の支援を理解する	
	46時間			
26	限	<u>個人の権利を守る制度</u>	・ 虐待防止に関する制度を理解する ・ サービス利用に関する制度を理解する ・ 消費者保護に関する制度を理解する ・ その他個人の権利を守る制度を理解する	
	47時間			
27	限	<u>保健医療に関する制度</u>	・ 保健医療に関する制度を理解する ・ 生活習慣病の予防・対策に関する制度を理解する ・ 結核、感染症の予防・対策に関する制度を理解する ・ HIV、エイズの予防・対策に関する制度を理解する	
	48時間			
28	限	<u>貧困と生活困窮に関する制度</u>	・ 生活保護を理解する ・ 生活困窮者自立支援法を理解する	
	49時間			

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
-------	---------------	-------------

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と達成目標	
科目名		科目時間総数		教員名	
社会の理解		60時間 (30限)		菊池 伸哉	
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と達成目標	
29	限	57時間	<u>地域生活を支援する制度</u>	・就労支援、雇用促進を理解する ・住生活を支援する制度を理解する ・自殺予防を理解する ・その他を理解する	
		58時間			
30	限	59時間	<u>後期テスト</u>		
		60時間			
	限	時間			
		時間			
	限	時間			
		時間			
	限	時間			
		時間			
	限	時間			
		時間			
	限	時間			
		時間			

授業計画表

介護福祉学科 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 情報科学		教員名 松森 良子	
科目時間数： 30時間 (15 限)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別：	必修・選択	配当学年： 2 年次	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 数学と人間のかかわりや社会生活における数学の活用の理と数学的・倫理的思考の学習。 パソコンの機能や操作の基本を理解し、就職後スムーズにパソコンを活用できる。 【社会福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 多相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に強調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 パソコンの基礎知識と基本操作の習得 (Windows・ワード・エクセル・パワーポイント) 【授業における達成課題】 介護現場、事例研究等で、ワード、エクセル、パワーポイントの基本操作を活用できる			
		使用教材	出版社
学生用		よくわかるWORD2021 & EXCEL2021 &PowerPoint2021	FOM出版
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率 5 % 、授業態度 5 %、提出物（プレゼン） 10%、中間試験40%、期末試験40%			
【備 考】 中間試験、期末試験は60点以上を合格とする			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 講師 【内 容】 高等学校 非常勤講師など			

科目名		科目時間総数	教員名
情報科学		30 時間 (15 限)	松森 良子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 限	1 時間	オリエンテーション	授業概要 Windows基本操作、マウス操作ができる
	2 時間		
		WORD2021	WORD2021 WORD概要、文字の入力を学ぶ 日本語入力システム操作（入力・変換・文章入力・保存）ができる
2 限	3 時間		WORD2021 ビジネス文書作成と印刷を学ぶ 文書作成、範囲選択・文書編集機能、印刷に関する機能を操作できる
	4 時間		
3 限	5 時間		表の作成を学ぶ 表と罫線に関する機能が操作できる
	6 時間		
4 限	7 時間		グラフィック機能を学ぶ ワードアート、画像、図形、ページ罫線の操作ができる
	8 時間		
5 限	9 時間	↓	WORDまとめ 問題演習
	10 時間		
6 限	11 時間	EXCEL2021	EXCEL概要、EXCELデータ入力を学ぶ データの入力と編集ができる 表の作成、編集
	12 時間		
7 限	13 時間	↓	数式を学ぶ 四則演算、関数の操作ができる
	14 時間		

科目名		科目時間総数		教員名	
情報科学		30 時間 (15 限)		松森 良子	
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と達成目標	
8 限	15時間			表の書式設定（罫線、表示形式、配置）、印刷の操作ができる	
	16時間			グラフを学ぶ グラフの作成、印刷ができる	
9 限	17時間			データベース分析を学ぶ	
	18時間			テーブル変換、データベース機能（並べ替え、抽出、集計など）を操作できる	
10 限	19時間			EXCEL まとめ 問題演習	
	20時間				
11 限	21時間	PowerPoint2021		PowerPoint概要、入力操作を学ぶ	
	22時間			Powerpointスライドの入力・編集ができる	
12 限	23時間			図形・表・画像・グラフの挿入と編集を学ぶ 図形・表・画像・グラフの操作ができる	
	24時間			切り替え・アニメーションの活用、配布資料や原稿の印刷操作ができる 切り替え・アニメーションの活用、配布資料や原稿の印刷操作ができる	
13 限	25時間			オリジナルスライドの作成	
	26時間			自分で作成したスライドを使い、クラス内でプレゼンができる	
14 限	27時間				
	28時間				

[illegible]

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ビジネス実務		教員名 吉田 あかり	
科目時間数 : 20時間 (10 限)		授業の種類 : <u>講義</u> ・ <u>演習</u> ・ 実習	
必修・選択の別 : <u>必修</u> ・選択	配当学年 : 1年次	開講時期 : <u>前期</u> ・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 社会人として職場に必要なビジネスマナーの基礎知識・技術の習得を目指す。			
【ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける <u>3.</u> 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 ビジネスマナーを習得するために必要な知識については主に講義形式で行うが、ロールプレイングやケーススタディを中心に、学生自身が主体的な参加が必須となる実践的な演習を行い、社会人としての言葉遣い、電話・来客対応の基本を学ぶ。			
【授業における達成課題】 社会人に必要な基礎的ビジネスマナーを身につけ、学習した知識・技術を実践することができる。			
【使用教材・テキスト等】 社会でいきる実践ビジネスマナー ウイネット			
【使用教室】 <u>1. HR</u> 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 授業態度10% 出席率10% 期末試験80%			
【備考】 ・筆記試験は60点以上を合格とする。 ・授業態度については、ルーブリック評価を参考にする。			
【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無			
【内 容】 職業訓練校等でビジネスマナー講師としての実務経験			

科目名 ビジネス実務		科目時間総数 20 時間 (10 限)	教員名 吉田 あかり
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1限	1 時間	オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する
	2 時間	〃	
2限	3 時間	第一印象と基本動作	第一印象の大切さを理解し、身だしなみ、表情、挨拶とお辞儀の基本を習得する
	4 時間	〃	
3限	5 時間	言葉遣いの基本	仕事上の話し方・聞き方の基本と感じの良い言葉遣いを習得する
	6 時間	〃	
4限	7 時間	〃	敬語の基本を習得する
	8 時間	〃	
5限	9 時間	〃	敬語とビジネス用語の基本を習得する
	10 時間	〃	
6限	11 時間	来客応対の基本	接遇とは何かを理解し、お客様の受け付け方や名刺の取り扱い方を実践できる
	12 時間	〃	
7限	13 時間	〃	ご案内の仕方、お茶の出し方を実践できる
	14 時間	〃	
8限	15 時間	電話応対の基本	電話の特性を理解し、電話の受け方の基本を習得し、実践できる
	16 時間	〃	
9限	17 時間	〃	伝言メモの作成と電話のかけ方の基本を習得し、実践できる
	18 時間	〃	
10限	19 時間	理解度確認	理解度確認テスト・解説
	20 時間	〃	

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ビジネス実務		教員名 吉田 あかり	
科目時間数 : 10時間 (5 限)		授業の種類 : ☒ 講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : ☒ 必修 ・ 選択	配当学年 : 2 年次	開講時期 : ☒ 前期 ・ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 対人関係のあり方とその基本的な言動としてのビジネスマナーの基本を理解し、総合的に実践できる			
【ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける ☒ 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 社会人となったとき、適切な考え方を持って行動ができるよう、対人関係の重要性と、社会人としての心構え、訪問のマナーの基本を学ぶ			
【授業における達成課題】 社会人として求められる心構えを理解し、社会人としてのビジネスマナーの基本を学び、その技術を総合的に実践することができる。			
【使用教材・テキスト等】 社会でいきる実践ビジネスマナー ウイネット			
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 授業態度10% 出席率10% 期末試験80%			
【備 考】 ・ 筆記試験は60点以上を合格とする。 ・ 授業態度については、ルーブリック評価を参考にする。			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 職業訓練校等でビジネスマナー講師としての実務経験			

科目名 ビジネス実務		科目時間総数 10 時間 (5 限)	教員名 吉田 あかり
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1限	1 時間	オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する 好ましい表情・挨拶とお辞儀を実践する
	2 時間	信頼を得る基本動作	
2限	3 時間	言葉遣いの実践	適切な言葉遣い・敬語を実践する 電話の受け方・かけ方を実践する
	4 時間	電話応対の実践	
3限	5 時間	社会人としての心構え	仕事に取り組む心構えを理解する 指示の受け方・報告の仕方を実践する 職場の人間関係の基本を理解する
	6 時間	〃	
4限	7 時間	訪問のマナー	訪問前の準備・訪問当日の基本を理解する
	8 時間	〃	
5限	9 時間	理解度確認	理解度確認テスト・解説
	10 時間	〃	

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 就職・職場研究		教員名 吉田 あかり	
科目時間数 : 15時間 (7.5 限)		授業の種類 : ☒ 講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : ☒ 必修 ・ 選択	配当学年 : 2年次	開講時期 : ☒ 前期 ・ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 働く意義を理解し、社会人となるに相応しい意識及び態度を身につける 就職活動に、主体的・積極的に取り組むことができるようになる			
【ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける ☒ 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 自らの働く意義を見つめ、自己分析を深める 面接成功のための意識を高め、面接対策を進める			
【授業における達成課題】 社会人となる意識を高め、面接対策として、身だしなみ・問答・立ち居振る舞い等に関する重要点を実践することができる			
【使用教材・テキスト等】 プリント・ワークシート			
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率10% 授業態度20% 提出物20% 成果発表50%			
【備 考】 ・ 提出物をすべて期限内に提出すること ・ 授業態度については、ルーブリック評価を参考にする。			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 職業訓練校等でビジネスマナー講師としての実務経験			

科目名 就職・職場研究		科目時間総数 15 時間 (7.5 限)	教員名 吉田 あかり
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1限	1 時間	ライフワークプラン	ライフワークプランの考え方を理解する 自らの働く意義・福祉の仕事で働く意義を理解する
	2 時間	〃	
2限	3 時間	自己分析	自己分析の方法、自己PRの方法を理解する
	4 時間	〃	
3限	5 時間	就職試験対策	公的な場での自己紹介を実践する
	6 時間	〃	
4限	7 時間	〃	面接成功のポイントを理解する
	8 時間	〃	
5限	9 時間	〃	面接時の問答を実践する
	10時間	〃	
6限	11時間	〃	面接時の立ち居振る舞いを実践する
	12時間	〃	
7限	13時間	〃	面接を総合的に実践する
	14時間	〃	
7.5限	15時間	〃	総括
	16時間	〃	

授業計画表

介護福祉学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 就職・職場研究		教員名 湊 和美 菊池 伸哉	
科目時間数: 15時間 (7.5限)		授業の種類: (講義) ・ (演習) ・ 実習	
必修・選択の別: (必修) ・ 選択	配当学年: 1, 2年	開講時期: (前期・後期) ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 社会人として仕事をしていく上で必要とされる、職場の組織体のあり方、人間関係のあり方、リーダーとなった場合の人材育成のあり方について学ぶ。			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 組織のしくみ・あり方、求められる資質などを学ぶ。 卒業生や介護現場の方に来校していただき、社会人として必要な心構えを学ぶ。			
【授業における達成課題】 前年度の就職状況を受け、今後の就職活動の参考にし進めていく。 自分の長所・短所、強み等を明確にし、履歴書や面接練習に活かすことができるようになる。			
	使用テキスト・参考文献	出版社	
学生用 その他	適宜プリント等対応		
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率 80% 授業態度 20%			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無			
【内容】 福祉施設での勤務経験			

科目名		科目時間総数	教員名	
就職・職場研究		15時間（7.5限）	湊 和美 菊池 伸哉	
時間数	教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標	
1 限	1時間	(1年次)	就活に向けて『働くことと』とは	
	2時間	『働く』とは	社会人としてのマナー・『今』すべきこととは	
2 限	3時間		第1回 就職セミナー（2年生の内定者からの報告）	
	4時間		第1回 就職セミナーを受けて（振り返り）・求職票及び第2回セミナーの説明	
0.5 限	5時間		春休みの過ごし方・ボランティア活動へ向けて	
1 限	1時間	(2年次) 就職研究	第2回 就職セミナー	
	2時間		（昨年度実績とそこから見える傾向、就活の進め方、心構え）	
2 限	3時間		履歴書用写真撮影／求人票の見方／ボランティアの進め方	
	4時間		模擬面接練習事前指導	
3 限	5時間		模擬面接授業	面接時の立ち振る舞いを覚える。 また自己の強みや苦手とする部分を知る。
	6時間			
4 限	7時間		履歴書作成	
	8時間			
5 限	9時間		社会人としての心構え・マナー	
	10時間		介護福祉士としての在り方について	

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護の基本 I		教員名 大崎 幸司	
科目時間数： 61時間（30.5限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年： 1年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 介護の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力・態度を身につける。			
【ディプロマポリシーとの関連】 1、相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む ② 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3、基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 介護ニーズおよび介護福祉を取り巻く状況を社会課題を踏まえたうえで、「尊厳を支える介護」・「自立に向けた介護」等について理解を深める。			
【授業における達成課題】 介護福祉士として様々な場面においての役割りと機能を理解する。 自立支援について様々な角度から考え、理解することが出来る。 介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉に求められる専門職としての態度を形成することが出来る。			
【使用教材・テキスト等】 介護の基本 I（中央法規）			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 期末試験 40％ 、 学年末試験 40％ 、 授業態度 10％ 、 出席率 10％			
【備考】 筆記試験は60点以上を合格とする。 授業態度については、ルーブリック評価を参考に評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 介護福祉士としての実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
介護の基本 I		61時間(30.5限)	大崎 幸司
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限	1時間	自己紹介	
	2時間	授業の位置付けについて理解する。	
2限	3時間	時代の流れとともに変化する介護ニーズや社会福祉を知り	
	4時間	理解する	
3限	5時間		
	6時間		
4限	7時間	尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を	
	8時間	理解する。	
5限	9時間		
	10時間		
6限	11時間	地域や施設、在宅の場における介護福祉士の役割と機能を	
	12時間	理解する。	
7限	13時間		
	14時間		
8限	15時間		
	16時間		
9限	17時間	介護予防や医療的ケアなど新たな介護福祉士の役割と機能を	
	18時間	理解する。	
10限	19時間		
	20時間		
11限	21時間	看取り、災害時などの場における介護福祉士の役割と機能を	
	22時間	理解する。	
12限	23時間		
	24時間		

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
13 限	25時間	<u>介護福祉士の倫理</u>	介護に携わる人が持つべき職業倫理を学ぶ。
	26時間		
14 限	27時間		
	28時間		
15 限	29時間		普遍的な倫理判断の視点を学び、それを様々な介護場面で どういかせるかを考えることが出来る。
	30時間		

科目名		科目時間総数	教員名
介護の基本 I		61時間(30.5限)	大崎 幸司
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
16限	31時間 32時間		
17限	33時間 34時間	自立に向けた介護 ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、 エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた	
18限	35時間 36時間	自立を支援するための環境整備や介護予防、 リハビリテーション等の意義や方法を理解する。	
19限	37時間 38時間		
20限	39時間 40時間		
21限	41時間 42時間	介護を必要とする人 の理解 介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、地域や社会との 関わりを理解する。	
22限	43時間 44時間		
23限	45時間 46時間	介護を必要とする人 生活を支える仕組み 介護を必要とする人の生活の観点から、介護サービスや地域連携 介護サービスや地域連携等フォーマル・インフォーマル	
24限	47時間 48時間	支援を理解する。	
25限	49時間 50時間	協働する多職種役割 り機能 多職種による介護を実践するために、保健・医療・福祉 保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割りと機能	
26限	51時間 52時間	を理解する。	
27限	53時間 54時間	介護における 安全の確保と 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解する。	

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
28限	55時間	<u>リスクマネジメント</u>	安全の確保のための基礎知識や事故への対応を理解する。
	56時間		
29限	57時間	<u>介護従事者の安全</u>	介護従事者自身が心身ともに健康に介護を実践するための 介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について
	58時間		
30限	59時間		理解する。
	60時間		
30.5限	61時間		

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護の基本 I 音楽療法		教員名 阿部 さつき	
科目時間数： 14時間（7限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ・ 選択	配当学年： 1年次	開講時期： 前期 ☒ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする方を全人的な視点で捉えた援助関係の在り方を理解するとともに、音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを心身の障がいの回復、機能の維持改善、生活の質の向上に向けてどのように用いてくのかを体験や実践により学習する。			
【ディプロマポリシーとの関連】 （当該科目が最も関連するDPに○） ① 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む ② 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける ③ 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 介護・支援を必要とする人の理解や援助的コミュニケーションについて講義で学び、グループワークを通してコミュニケーション技法の習得を目指す。 対人援助職としての音楽療法について理解し、音楽を援助的なコミュニケーションツールとして実践に活かせることを目指す。			
【授業における達成課題】 ・介護・支援における言語的・非言語的コミュニケーションや音楽での援助的コミュニケーションの意義・目的について理解し、説明ができる。 ・言語や音楽でのコミュニケーション技術を理解し、実践することができる。 ・グループワークを通して他者と連携して物事を行い、自主性・創造性・協調性を身に付けることができる。			
【使用教材・テキスト等】 音楽療法入門上(理論編)下(実践編) 日野原重明監修 春秋社 音楽療法の手引き、音楽療法の実際 松井紀和著 牧野出版 音楽療法を定義する ケネス・E・ブルシア著 東海大学出版社			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 1. 授業態度20% 2. 出席率20% 3. ワーク・演習60%			
【備考】 1. ルーブリック評価に基づき評価点を算出する ＊ワーク演習欠席者はレポート提出により評価			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 発達障がい児者・高齢者施設に於いて、音楽療法士としての実務経験			

科目名 介護の基本 I 音楽療法		科目時間総数 14時間 (7限)	教員名 阿部 さつき
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1時間 2時間 1限	<u>介護を必要とする人の生活を支える仕組み</u> <オリエンテーション> <音楽療法とは？ワーク>	授業の位置づけや内容の説明、自己紹介 ・授業の位置づけや内容について理解する、自己紹介 音楽療法的活動を体験してみよう①&フィードバック ・コミュニケーションや支援のツールとしての音楽活動を体験する 音楽療法概論、映像視聴 ・概論、映像視聴により、音楽療法についての基本的な知識を得る	
3時間 4時間 2限	<対人援助職における関わり方の基本と音楽療法> <ワーク>	対象者理解の為の言語的・非言語的関わり方 ・コーチングや傾聴について学び、理解する 対象者理解/自己理解の為のワーク ・課題に対して話し手聞き手になり、他者理解の仕方を学ぶ 音楽療法的活動を体験してみよう②&フィードバック ・コミュニケーションや支援のツールとしての音楽の使い方や効果について、体験を通して学ぶ	
5時間 6時間 3限	<高齢者に対する音楽療法の実際①> <ワーク>	疾患とその症状 ・高齢者の身体的変化や疾患とその症状について学ぶ 症状やニーズに合わせた音楽療法の目的と活動紹介・ワーク① ・症状やニーズに合わせた音楽療法（脳、身体、心理、社会性へのアプローチ）を学ぶ ・症状やニーズに合わせた音楽療法的活動を体験する 覚えておきたい童謡唱歌・歌謡曲・民謡① ・高齢者施設で活用できる歌を覚え、療法的な音楽活動に活かす方法を学ぶ	
7時間 8時間 4限	<高齢者に対する音楽療法の実際②> <ワーク>	前回の授業の復習 ・高齢者の身体的変化や疾患とその症状、症状やニーズにあわせた音楽療法の目的と活動の意義について理解を深める 症状やニーズに合わせた音楽療法の目的と活動紹介・ワーク② ・症状やニーズに合わせた音楽療法（脳、身体、心理、社会性へのアプローチ）を学び深める ・症状やニーズに合わせた音楽療法的活動を体験する 覚えておきたい童謡唱歌・歌謡曲・民謡② ・高齢者施設で活用できる歌を覚え、療法的な音楽活動に活かす方法を学ぶ	
9時間 10時間 5限	<発達障がい児者に対する音楽療法の実際> <音楽療法的活動作り計画>	発達障がいの症状と理解 ・発達障がいの症状について学ぶ 症状に合わせた音楽療法の目的と活動紹介・ワーク ・発達障がい児者の症状やニーズに合わせた音楽療法（音楽や音の使い方、関わり方）を学ぶ ・症状やニーズに合わせた音楽療法的活動を体験する 音楽療法的活動作りの準備 ・グループ編成をし、大枠で活動計画を立案する	
11時間 12時間 6限	<対人援助職としての音楽療法のまとめ>質疑応答 <音楽療法的活動作り・演習>	・音楽療法の基礎についてのまとめをし、総括的に理解する 高齢者、発達障がい児者に対する音楽療法的活動創り・演習 ・グループで協同しながら活動を創り、練習する	
13時間 14時間 7限	<音楽療法的活動演習> <発表とフィードバック> <総括>	高齢者、発達障がい児者に対する音楽療法的活動の演習 ・グループで協同しながら、発表に向けて活動を仕上げる 活動の発表とフィードバック ・グループ毎の発表や意見交換を行い、対人援助職として大切な姿勢や態度で臨むことができる ・まとめ総括	

授業計画表

介護福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護の基本 I (造形)		教員名 湊 和美	
科目時間数 : 9時間 (4.5限)		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別 :	必修・選択	配当学年 : 2年次	開講時期 : 前期・後期・集中
〔授業の目的・ねらい〕 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 〔授業全体の内容の概要〕 介護を必要とする人のADLやQOLを意識した物作りやレクリエーションを企画・準備、実施まで行う。 〔授業における達成課題〕 介護を必要とする人の生活の個性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解し、その方にあった支援を考えることができる。			
	使用教材	出版社	
教員用	月刊誌・季刊誌を参考資料とする		
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率 50% 授業態度 30% 作品 20%			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 介護福祉士としての勤務経験			

科目名 介護の基本Ⅰ（造形）		科目時間総数 9時間（4.5限）	教員名 湊 和美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	介護を必要とする人の個別性に対応した支援（レクリエーションに関するもの）を考え提供できるようになる	
1限	1時間	・オリエンテーション（授業概要の説明） ・個人制作 ①教員からの提案内容を実際に作成 ・個人制作 ②介護を必要とする人の個別性（ADL・QOL）に対応したレクリエーションの企画	
	2時間		
2限	3時間	・個人製作 ③②の実施・完成	
	4時間		
3限	5時間	・集団制作 ①壁面飾りの企画・準備（・作成）	
	6時間		
4限 ・5限	7時間	・集団制作 ②壁面飾りの作成・完成	
	8時間 9時間		

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護の基本 I		教員名 佐々木 純子	
科目時間数 : 6時間 (3 限)		授業の種類 : 講義・演習・実習	
必修・選択 の別 :	必修・選択	配当学年 : 2年次	開講時期 : 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 専門分野における知識と技術を身に着けるため、基礎的学力を習得する 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ①. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 周囲に目を配り、TP0をわきまえ、精神的に他者とかかわりながらこみゆにけーしょんを取れる人を育てる 【授業における達成課題】 生命に対する尊厳を養い、真の優しさを身に着け実践することができる			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率 50% 授業態度 50%			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】草月流 3級師範			

科目名		科目時間総数	教員名
介護の基本Ⅰ（華道）		6時間（3限）	佐々木 純子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 限	1 時間 2 時間	オリエンテーション 華道① 生け花	生け花の基礎 「真・副・控」基本立真型を学ぶ
2 限	3 時間 4 時間	華道② 生け花	基本の復習 基本立真型・盛花を学ぶ
3 限	5 時間 6 時間	華道③ フラワーアレンジメント	応用 クリスマス向けの花材を使用したアレンジメント

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護の基本Ⅱ		教員名 阿部 真由美	
科目時間数： 80時間 (40限)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 1、2年次	開講時期： 前期・後期 集中	
【授業の目的・ねらい】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 介護ニーズおよび介護福祉を取り巻く状況と社会的課題を踏まえたうえで、「尊厳を支える介護」・「自立に向けた介護」等について理解を深める。介護福祉を必要とする人の「暮らし」と多様性を理解する。 【授業における達成課題】 介護福祉士として様々な場面における役割りと機能を理解する。 自立支援について様々な角度から考え、理解することが出来る。 介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉に求められる専門職としての態度を形成することが出来る。			
	使用教材	出版社	
学生用	介護の基本Ⅱ 第2版	中央法規	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率 10% 授業態度 10% 提出物 10% 試験 70%			
【備考】 - 筆記試験は60点以上を合格とする。 - 授業態度については、ルーブリック評価を参考にする。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 介護福祉士としての実務経験			

科目名		介護の基本Ⅱ	科目時間総数 80時間 (40限)	教員名 阿部 真由美
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間	1 年次	オリエンテーション	
	2時間	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活とは何か 生活の大切な要素 生活の特性	
2限	3時間		↓	
	4時間		いろいろなもの（者・物）に関心をもとう	
3限	5時間		地域を知ろう 地域探検	
	6時間			
4限	7時間		地域探検まとめ（新聞づくり）	
	8時間			
5限	9時間		地域探検まとめ（新聞づくり）	
	10時間			
6限	11時間		「その人らしさ」と「生活のニーズ」の理解	
	12時間		生活のしずらさの理解と支援	
7限	13時間		1 節 利用者の生活を支えるしくみ	
	14時間		地域共生社会 地域包括ケアシステム	
8限	15時間		2 節 生活を支えるフォーマルサービス	
	16時間		・ 高齢者	
9限	17時間		生活を支えるフォーマルサービス	
	18時間		・ 障害者	
10限	19時間		介護福祉士に求められる視点	
	20時間			
11限	21時間		3 節 生活を支えるインフォーマルサービス	
	22時間		費用負担	
12限	23時間		インフォーマルサービスの種類 提供者	
	24時間		支援の視点	
13限	25時間		4 節 地域連携の実際	
	26時間		機関の理解	
14限	27時間		機関の理解	
	28時間			
15限	29時間		演習 実習で使える小物づくり（すごろく・なぞなぞなど）	
	30時間			

時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
16限	31時間	介護における安全の確保とリスクマネジメント 上	演習 実習で使える小物づくり（すごろく・なぞなぞなど）
	32時間		
17限	33時間		リスクマネジメント 介護における安全の確保
	34時間		介護福祉士の責務と安全の確保
18限	35時間		リスクマネジメントとは何か
	36時間		過誤・事故・苦情
19限	37時間		身体拘束
	38時間		
20限	39時間		事故防止対策
	40時間		
21限	41時間		感染症対策
	42時間		主な感染症 予防策
22限	43時間		感染症発生時の対応
	44時間		薬剤耐性の知識 服薬管理
0.5限	45時間		修了テスト
23限	46時間	2 年次	多職種連携・協働とは
	47時間	協働する他職種の役割と機能	多職種連携・協働を要請する社会の動き
24限	48時間		多職種連携・協働の必要性
	49時間		多職種連携・協働の効果
25限	50時間		多職種連携・協働のためのチームづくり
	51時間		多様な視点 課題解決に対するかかわり方
26限	52時間		多職種協働を成功させるための介護技術と知識
	53時間		ホスピタリティ的視点とコミュニケーション能力
27限	54時間		保健・医療・福祉職の役割と機能
	55時間		社会福祉士・介護専門員・医師・看護師・保健師・理学療法士
28限	56時間		作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士・公認心理士
	57時間		薬剤師・サービス提供管理者
29限	58時間		多職種連携・協働の実際
	59時間		

科目名		介護の基本Ⅱ	科目時間総数	80時間（40限）	教員名	阿部 真由美
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標			
30限	60時間		多職種連携・協働の実際			
	61時間		多職種連携の実際			
31限	62時間	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的			
	63時間		従事者の健康や生活を守る法制度			
32限	64時間		健康に働くための健康管理			
	65時間					
33限	66時間		こころの健康問題 ストレスとこころの健康			
	67時間		こころの病気			
34限	68時間		職場で取り組むこころの健康管理			
	69時間		ストレスの影響と対処法			
35限	70時間		演習 介護事故・事件			
	71時間					
36限	72時間		演習 介護者の事故・事件			
	73時間					
37限	74時間		介護従事者の健康管理			
	75時間		腰痛予防			
38限	76時間		労働環境の整備			
	77時間		介護従事者の労働災害			
39限	78時間		予防			
	79時間		まとめ			
0.5限	80時間		修了テスト			

授業計画表

介護福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護の基本Ⅱ		教員名 長谷川 江利子	
科目時間数： 10時間 (5限)		授業の種類： 講義・演習・実習	
必修・選択の別： 必修・選択		配当学年： 2年	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育てる 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を育てる 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれるように育てる			
【授業全体の内容の概要】 介護における安全の確保とリスクマネジメント（事故防止・感染管理のための方策）の知識を学び人の命を守るための技術を身につける			
【授業における達成課題】 ・介護現場は勿論であるが、いつ、どこで遭遇するかわからない事故やケガに対応でき、命を守るための力を身につけることができる。			
	使用教材	出版社	
学生用 教員用参考	応急手当講習テキスト 最新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア	一般財団法人 救急振興財団 中央法規出版	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率 20％ 授業態度 20％ 救命講習 60％			
【備考】 3時間の普通救命講習を実施し、必要な技術が身につけていけば、普通救命講習の修了証を発行する			
【担当教員の実務経験の有無】 有 無			
【内 容】 看護師としての勤務経験 ・ 応急手当普及員の資格			

科目名		科目時間総数	教員名
介護の基本Ⅱ		10時間（5限）	長谷川 江利子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	1時間	オリエンテーション	授業の位置づけの理解
	2時間	介護における安全の確保と リスクマネジメント	利用者の心身の安全を守り、安心、安楽な生活を支援できる 到達目標：万一の事故に備えて応急手当のポイントを復習する
2 限	3時間	応急処置の実際	三角巾の基本的な使い方（たたみ方・本結び・四つ折り・
	4時間	緊急時対応の実際	八つ折りの使い方）・骨折の手当ができる 適切に止血の方法を実施できる 到達目標：三角巾を使った応急手当ができるようになる
3 限	5時間	緊急時対応の実際	その場に居合わせた人が救命処置を行う意義について 到達目標：一次救命処置の手順と方法を理解し実施できる力を 身に着ける
	6時間		
4 限	7時間	心肺蘇生法の実際	心肺蘇生法の実際
	8時間	緊急時対応の実際	普通救命講習（修了証の取得）
5 限	9時間		適切な体位を取れる（仰臥位・
	10時間		到達目標：心肺蘇生法とAEDを使った救命処置ができるようになる 普通救命講習の修了証を取得できる

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 コミュニケーション技術		教員名 菊池 伸哉	
科目時間数 : 45時間 (22.5 限)		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : 必修・選択	配当学年 : 1 年次	開講時期 : 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ① 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む ② 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける ③ 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 コミュニケーションの基本を理解した上で、利用者や家族など具体的なコミュニケーション技法の習得をめざす（ロールプレイ、グループディスカッション）。			
【授業における達成課題】 ・ 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、説明ができる。 ・ 様々なコミュニケーション技法を理解し、実践することができる。 ・ チームにおけるコミュニケーションに必要な記録や報告などについて学び、その技術を実践することができる。			
【使用教材・テキスト等】 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（中央法規）			
【使用教室】 ①. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率10%、授業態度10%、中間テスト30%、期末（修了）テスト50%			
【備考】 筆記試験は60点以上を合格とする。 授業態度については、ルーブリック評価を参考に評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 社会福祉協議会での相談支援業務、研修講師等			

科目名 コミュニケーション技術		科目時間総数 45時間 (22.5限)	教員名 菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1	限	オリエンテーション <u>介護におけるコミュニケーションの基本</u>	授業の位置づけについて理解する
	1時間 2時間		介護におけるコミュニケーションの意義・目的を理解する
2	限	<u>介護におけるコミュニケーションの基本</u>	介護におけるコミュニケーションの意義・目的を理解する
	3時間 4時間		介護におけるコミュニケーションの役割を理解する
3	限	<u>介護におけるコミュニケーションの基本</u>	介護におけるコミュニケーションの役割を理解する
	5時間 6時間		援助関係とコミュニケーションについて理解する
4	限	<u>介護におけるコミュニケーションの基本</u> <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	援助関係とコミュニケーションについて理解する
	7時間 8時間		コミュニケーション態度に関する基本技術を会得する
5	限	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	コミュニケーション態度に関する基本技術を習得する
	9時間 10時間		言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本を理解する
6	限	テスト	目的別のコミュニケーション技術を理解し習得する
	11時間 12時間	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	
7	限	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	目的別のコミュニケーション技術を理解し習得する
	13時間 14時間		

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
科目名 コミュニケーション技術			科目時間総数 45時間 (22.5限)	教員名 菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
8	限	<u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	チームのコミュニケーションの意義・目的を理解する	
	15時間			
9	限	<u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	報告・連絡・相談の技術を理解し習得する	
	16時間			
10	限	<u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	報告・連絡・相談の技術を理解し習得する	
	17時間			
11	限	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	集団におけるコミュニケーション技術を理解する	
	18時間			
12	限	テスト	集団におけるコミュニケーション技術を理解する	
	19時間			
13	限	テストの振り返り	記録の意義・目的について理解する	
	20時間			
14	限	<u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	記録の意義・目的について理解する 記録の書き方を習得する	
	21時間			

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
科目名 コミュニケーション技術			科目時間総数 45時間 (22.5限)	教員名 菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
15	限	29時間 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	記録の書き方を習得する	
		30時間		
16	限	31時間 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	介護福祉職が行う会議の意義や目的、種類、役割を理解する	
		32時間		
17	限	33時間 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	介護福祉職が行う会議の意義や目的、種類、役割を理解する	
		34時間		
18	限	35時間 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	事例検討におけるコミュニケーションの基本姿勢を理解する	
		36時間		
19	限	37時間 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	介護福祉職が行う業務でのＩＣＴの活用の仕方、利点などを理解する	
		38時間		
20	限	39時間 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	介護福祉職が行う業務でのＩＣＴの活用の仕方、利点などを理解する	
		40時間		
21	限	41時間 テストのポイント	介護福祉職が行う業務でのＩＣＴの活用の仕方、利点などを理解する	
		42時間 テストのポイント		

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
科目名 コミュニケーション技術			科目時間総数 45時間（22.5限）	教員名 菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
22 限	43時間	テスト	・ 障害者の法的定義を理解する	
	44時間	オリエンテーション		
22.5 限	45時間	テスト振り返り		

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 コミュニケーション技術		教員名 菊池 伸哉	
科目時間数 : 15時間 (7.5 限)		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : 必修 ・ 選択	配当学年 : 2 年次	開講時期 : 前期 ・ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 ① 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む ② 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける ③ 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 コミュニケーションの基本を理解した上で、利用者や家族など具体的なコミュニケーション技法の習得をめざす（ロールプレイ、グループディスカッション）。			
【授業における達成課題】 ・ 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、説明ができる。 ・ 様々なコミュニケーション技法を理解し、実践することができる。 ・ チームにおけるコミュニケーションに必要な記録や報告などについて学び、その技術を実践することができる。			
【使用教材・テキスト等】 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（中央法規）			
【使用教室】 ①. HR ②. 介護実習室 ③. 家政実習室 ④. 視聴覚室 ⑤. PC実習室 ⑥. 接遇実習室 ⑦. その他（ ）			
【評価方法】 出席率10%、授業態度10%、中間テスト30%、期末（修了）テスト50%			
【備考】 筆記試験は60点以上を合格とする。 授業態度については、ルーブリック評価を参考に評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 社会福祉協議会での相談支援業務、研修講師等			

科目名 コミュニケーション技術		科目時間総数 15時間 (7.5限)	教員名 菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1	限 1時間 2時間	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	コミュニケーション障害への対応の基本を理解する
2	限 3時間 4時間	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援を学び、理解する
3	限 5時間 6時間	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援を学び、理解する
4	限 7時間 8時間	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援を学び、理解する
5	限 9時間 10時間	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	家族と協働していく支援のパートナーであることを理解する 家族への助言・指導・調整の必要性を理解する
6	限 11時間 12時間	<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u>	家族が抱える介護ストレスを理解し、対応を習得する
7	限 13時間 14時間	テストのポイント オリエンテーション	
7.5	限 15時間	期末試験	

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 居住環境の整備 生活支援技術 I		教員名 植田 優	
科目時間数 : 20時間 (10 限)		授業の種類 : <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <u>必修</u> ・ 選択	配当学年 : 1 年次	開講時期 : 前期 <u>後期</u> ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 介護の基本である、尊厳の保持の観点から①意思決定は本人が行う。 ②生活の継続性を大切にする。③残った能力を最大限活用する。 の三つのポイントを抑えつつ、安全に援助できる技術や知識について習得する。			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む <u>②</u> . 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 自立に向けた居住環境の整備 ①快適な室内環境・安全に暮らすための生活環境 ②高齢者障害者の住まい ③居住環境整備における、多職種との連携 ④福祉用具の種類及び重要性、選ぶための視点			
【授業における達成課題】 中古住宅の改修プランの演習を通し、室内外での障害について認識する。 福祉機器を体験する事により、障害を持つ事の大変さを認識し、安全に援助できる知識を習得する。			
	使用教材	出版社	
学生用	最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I (第2版)	中央法規	
【使用教室】 1. <u>HR</u> 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. <u>その他</u> (福祉機器展示場)			
【評価方法】 授業態度10% 出席率10% レポート80%			
【備考】 第2章居住環境の整備から4問、第4章福祉用具の意義から3問レポート課題を出し、概ね60点以上を合格とする。又、授業態度は、ルーブリック評価に準ずる。			
【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無			
【内容】 一級建築士			

科目名 居住環境の整備		科目時間総数 20時間（10限）	教員名 植田 優
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1 限	1 時間	<u>オリエンテーション、住まいの役割を理解する</u>	授業全体の流れの解説 住まいの役割と機能、家族と生活空間、人と空間、加齢と生活空間、以上を学習し、理想の居住空間整備をアドバイス及び実践できる
	2 時間	<u>家族・人と生活空間のかかわりについて理解し、住まいと地域とのつながりの形成の意義を理解する</u>	
2 限	3 時間	<u>生活空間を整備する際の留意点を理解し、加齢にともなう身体機能の低下に対応した生活空間整備に向けて、各室の留意点を理解する。又快適な室内環境を理解する</u>	生活環境と室内環境、室内気候・明るさ・音環境の調整、住まいの維持・管理を実感し、快適な室内環境で安心して暮らす事を、アドバイス及び実践できる
	4 時間		
3 限	5 時間	<u>安全に暮らすための生活環境の重要性と対応策について理解する</u>	日常安全のために、ユニバーサルデザインの考え方を中心に住宅内を整備し、介護保険制度を利用し、住宅改修も実践できる
	6 時間		
4 限	7 時間	<u>居住環境整備に関わる職種とその役割について学ぶ</u>	居住環境整備における多職種との連携の必要性と、多職種の役割と介護福祉職との連携の大切さを実感し、多職種連携の実践を実践できる
	8 時間		
5 限	9 時間	レポート作成	「住環境整備」の授業のまとめを、レポートにして提出
	10 時間		
6 限	11 時間	<u>福祉用具の定義と範囲を理解する</u>	生活支援における福祉用具の重要性及び可能性を実感し、今後の介護に実践できる
	12 時間	<u>福祉用具を使用する意義を理解する</u>	
7 限	13 時間	<u>福祉用具の種類を理解する</u>	福祉用具の分類、公的制度における福祉用具サービスを理解する 解決手段は福祉用具だけではなく、アセスメントの視点、福祉用具の適合・モニタリングの視点も大切であることを実感し、実践できる
	14 時間	<u>介護保険法、障害者総合支援法における福祉用具サービスを理解する</u>	
8 限	15 時間	福祉機器展示場見学	福祉機器を体験する事により、援助できる知識を実感し、実践できる
	16 時間		
9 限	17 時間	レポート作成作成	「福祉用具の意義」の、授業のまとめを、レポートにして提出。
	18 時間		
10 限	19 時間	<u>住宅改修事例 を見ることで、具体的な詳細を理解する</u>	バリアフリー住宅&住宅改修事例解説（パワーポイント資料）
	20 時間		

授業計画表

介護福祉 学科

MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅰ（調理）		教員名 古澤 美智子	
科目時間数： 27時間（13.5限）		授業の種類： 講義・演習・実習	
必修・選択の別： 必修選択		配当学年： 1年次	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出したり見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育てる ② 人間と生活を総合的に理解し、個性性を尊重した生活支援を実践できる能力を育てる 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれるように育てる			
【授業全体の内容の概要】 家庭生活における食生活の意義と食環境等を理解し、家事の介護について学ぶ。 利用者の視点で生活支援技術を学べるようにする。			
【授業における達成課題】 年代や障害等利用者の状態に応じた食事の形態を考えた調理を実践できる。 あり合わせの食材での献立を考え、調理できるようになる。 家事の楽しさや大変さを感じ、台所の工夫などができる。			
【使用教材・テキスト等】 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 第2版 中央法規			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 授業態度80% 出席率20%			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 栄養士としての実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
生活支援技術 I (調理)		27時間 (13.5限)	古澤 美智子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1.5限 1時間 2時間 3時間	自立に向けた家事の介護 (食生活・調理)	オリエンテーション (授業の位置づけ・進め方) ・食生活とは、家事支援(調理)の意義と目的について理解する ・調理の介助方法について学ぶ ・食品の選択・保存、衛生管理、食中毒について学ぶ	
2.5限 4時間 5時間 3.5限 6時間 7時間	自立に向けた家事の介護 (調理実習) ①	調理実習の進め方 ・安全・衛生面について ・調理器具の使い方・計量について ・栄養バランスのとれた献立のたて方 ・簡単な昼食を作って試食する (おにぎり・みそ汁・お浸し)	
4.5限 8時間 9時間 5.5限 10時間 11時間	②	・カルシウム・食物繊維の多い食事	
6.5限 12時間 13時間 7.5限 14時間 15時間	③	・塩分を抑えた食事	
8.5限 16時間 17時間 9.5限 18時間 19時間	④	・おやつ作り ・家庭にある食材を使い献立を考える (グループ献立) (訪問介護を想定し、高齢者向けの献立とする)	
10.5限 20時間 21時間 11.5限 22時間 23時間	⑤	・飲み込みやすい食事 (咀嚼困難・嚥下困難な人の場合) ソフト食 → 刻み食 → ミキサー食	
12.5限 24時間 25時間 13.5限 26時間 27時間	⑥	・家庭にある食材を使い食事作り (訪問介護を想定し、高齢者向けの食事) ～ ④の献立によるグループ毎の調理 ～	

授業計画表

介護福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅰ (生活支援の基本的な考え方) (災害時における生活支援)		教員名 長谷川 江利子	
科目時間数： 13時間 (6.5限)		授業の種類： 講義・演習・実習	
必修・選択の別：	必修・選択	配当学年： 1年	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 ・災害時における生活支援として、被災地で活動する際の心構えや生活支援の在り方と日頃からの災害に対する対策についての知識や技術を習得する学習とする			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育てる ② 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を育てる 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれるように育てる			
【授業全体の内容の概要】 ・生活支援について理解し、生活の豊かさやその人らしさの理解につなげることができるよう内容とする ・災害時の対応や心構えについて理解できる内容とする ・有事の際の被災地での活動がイメージできるようにする			
【授業における達成課題】 ①生活の豊かさやその人らしさを保持するための支援を理解することができる。 ②身近で起こり得る災害について学び、有事の際、慌てない対応ができる力を身につける。 ③また災害時は人の命を守る職種に就くため、日頃からの心構えと準備をしておく大切さについても学ぶ ④災害時、自分の命を守りながら、介護福祉士としてチームで利用者の生活を守ることの重要性とその役割について理解を深め、実際の場面で実践できる力をつけることができるようになる			
	使用教材	出版社	
学生用 教員用参考	第6巻 生活支援技術Ⅰ	中央法規出版	
【使用教室】 ①. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 ④. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 ⑦. その他 (盛岡中央消防署)			
【評価方法】 出席率 20% 授業態度 80%			
【備考】 授業態度はMCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校の成績評価基準に準じる			
【担当教員の実務経験の有無】 有 無			
【内 容】 看護師としての勤務経験			

科目名 生活支援技術 I		科目時間総数 13時間 (6.5限)	教員名 長谷川 江利子
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
1	限	1時間	生活支援の基本的な考え方を理解する - 生活支援について理解し、説明することができる - 生活支援のポイントから自己の課題を見つけることができる - 身近に起こり得る災害にはどんなものがあるのかを知り、それに対する支援方法を理解できる - 非常持ち出し袋と数日分の備蓄について考える - 被災地支援について、災害直後の支援と支援体制が整ってきた後の違いについて理解できる - 災害時に役に立つものを身近にあるもので作ることができる(紙コップや新聞紙スリッパ等) 到達目標：災害時、身を守るための行動が取れ、介護福祉士として適切な対応が取れるようになる
		2時間	
2	限	3時間	
		4時間	
3	限	5時間	
		6時間	
4	限	7時間	
		8時間	
5	限	9時間	
		10時間	
6	限	11時間	
		12時間	
7	限	13時間	

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅰ		教員名 小村田奈津子	
科目時間数：30時間 (15限)		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択 の別：必修・選択	配当学年：2年次	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 ・生活における家事運営の重要性がわかる ・家事技法を習熟し、生活支援に必要な十分な技術を習得する ・自立に向けた家事支援介護の方法がわかり、実践できる			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける			
【授業全体の内容の概要】 基本の家事技法習得を目指す 在宅訪問などを想定した演習を通し、自立に向けた家事支援の方法を学ぶ			
【授業における達成課題】 家事支援の基本技能が実践できる 自立に向けた家事技法が実践できる			
【使用教材・テキスト等】 生活支援技術Ⅰ 第2版 中央法規			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席 10% 授業態度 30% 実習製作物 40% レポート20%			
【備考】 筆記試験は行わない			
【担当教員の実務経験の有無】 有・無			
【内 容】 大学教育学部家政科において技術補佐員（中学・高校家庭科教員免許所持）			

科目名		科目時間総数	教員名
生活支援技術 I		30時間（15限）	小村田奈津子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	生活支援の理解 〃	自立生活での家事の重要性が理解できる 介護関連多職種との連携が理解できる	
2限 3時間 4時間	自立に向けた家事の介護 家事支援	家事介護内容を分析し、作業計画を立てることができる 〃	
3限 5時間 6時間	〃 〃	一定時間内での作業ができる 〃	
4限 7時間 8時間	自立に向けた家事の介護 衛生環境支援	衛生的な住まい環境を理解できる 〃	
5限 9時間 10時間	〃 〃	場所に対応した掃除技法を実践できる 〃	
6限 11時間 12時間	自立に向けた家事の介護 家計管理支援	高齢者の消費トラブル防止が理解できる 〃	
7限 13時間 14時間	〃 〃	利用者に対応した買い物支援の方法を理解し最適な支援を実践できる 〃	
8限 15時間 16時間	自立に向けた家事の介護 衣生活の支援	高齢者、障がい者に対応した衣類・寝具の調整が実践できる 〃	
9限 17時間 18時間	〃 〃	衣類の取扱表示について内容を理解し正しい選択を実践できる 衣類に応じた洗濯技法を実践できる	
10限 19時間 20時間	〃 〃	適切な衣類寝具類の管理方法を実践できる 〃	
11限 21時間 22時間	〃 〃	基礎的縫製技術を習得する 〃	
12限 23時間 24時間	〃 〃	基礎的縫製技術を用い、作品を美しく仕上げるができる 〃	
13限 25時間 26時間	〃 〃	〃 〃	
14限 27時間 28時間	〃 〃	〃 〃	
15限 29時間 30時間	〃 〃	状況に応じた衣類補修が実践できる 〃	

授業計画表

介護福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅱ		教員名 湊 和美	
科目時間数： 42時間（21限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修	選択	担当学年： 1年	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 「こころとからだのしくみ」と関連付けて進度を調整し、履修内容をつなげて学生が理解できるようにする。初めに見守りが必要な利用者を設定し演習を展開する。そこでADLの基本、潜在能力の引き出し、それを活用・発揮させることの意義を学んでから、一部介助・全介助を習得する。 【授業における達成課題】 ・利用者個人の尊厳を保持しながら、利用者が主体的に生活できるよう支援し、喜びを感じてもらう環境づくりをすることの大切さを理解する。 ・利用者の状態・症状に応じた介護の留意点を理解した上で、習得した技術を実践できるようになる。			
	使用教材	出版社	
学生用 教員用	最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ（第2版） 生活支援技術Ⅱ（第2版）	中央法規出版	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率 10% 授業態度（忘れ物含む） 20% 実技試験 40% 筆記試験 30%			
【備考】 各单元ごとの筆記試験は60点以上を合格とする。実技試験は单元ごと、減点方式によりー3以下を合格とする。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 介護福祉士としての勤務経験			

科目名 生活支援技術Ⅱ（移動）		科目時間総数 22時間（11限）	教員名 湊 和美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 2限	オリエンテーション <u>自立に向けた移動の介護</u>	授業の位置づけの理解 自立した移動・一連の流れについて理解する 自立に向けた移動の介護をするために介護福祉職がすべきことを理解し、答えられるようになる ボディメカニクスについて学ぶ ・ボディメカニクスを答えられるようになる 安楽な姿勢・体位を理解 ・褥瘡の原因、好発部位、予防・対応について学び、答えられるようになる 多職種連携の必要性	
3限 4限 5限 6限 7限 8限 9限 9.5限	5時間 6時間 7時間 8時間 9時間 10時間 11時間 12時間 13時間 14時間 15時間 16時間 17時間 18時間 19時間	【演習】自立に向けた移動・移乗の介護／ボディメカニクスの実践 ①上方移動 ②水平移動 ③仰臥位から側臥位 ④起き上がりから端座位 ⑤端座位から立位 ⑥杖歩行・介助 ⑦端座位から車いすへの移乗 ⑧安楽な体位	
10.5限	20時間	筆記試験	
11限	21時間 22時間	実技試験	

科目名 生活支援技術Ⅱ（排泄）		科目時間総数 20時間（10限）	教員名 湊 和美
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
1限	1時間	オリエンテーション	授業の位置づけの理解
2限	2時間	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	自立した排泄・一連の流れについて理解する 自立に向けた排泄の介護をするために介護福祉職がすべきことを理解し、答えられるようになる
	3時間		頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁への対応 ・自然排尿、自然排便を困難にするおもな排泄障害を学ぶ
	4時間		・予防、対応について学ぶ ・座薬挿入、浣腸⇒医療行為とは 多職種連携の必要性
3限 ～ 9限	5 ～ 8時間		【演習】介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な 介助方法を実践する ①ポータブルトイレでの排泄介助 ②尿器・差し込み便器 ③おむつ交換
10限	19時間 20時間		実技試験 ※筆記試験（移動と併せての試験とする）

授業計画表

介護福祉 学科 MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅱ		教員名 阿部 真由美	
科目時間数: 57時間(28.5限)		授業の種類: 講義・演習・実習	
必修・選択 の別:	必修・選択	配当学年: 1年次	開講時期: 前期・後期・集中
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 【授業全体の内容の概要】 「ここからだのしくみ」と関連付けて進度を調整し、履修内容をつなげて学生が理解できるようにする。初めに見守りが必要な利用者を設定し演習を展開する。そこでADLの基本、潜在能力の引き出し、それを活用・発揮させることの意義を学んでから、一部介助・全介助を習得する。 【授業における達成課題】 ・利用者個人の尊厳を保持しながら、利用者が主体的に生活できるよう支援し、喜びを感じてもらう環境づくりをすることの大切さを理解する。 ・利用者の状態・症状に応じた介護の留意点を理解した上で、習得した技術を実践できるようになる。			
	使用教材	出版社	
学生用	最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ(第2版)	中央法規出版	
教員用	同上		
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他(入浴実習室)			
【評価方法】 授業態度 10% 実技試験 90%			
【備考】 ・授業態度については、ルーブリック評価を参考にする。			
【担当教員の実務経験の有無】 有・無			
【内 容】 介護福祉士としての勤務経験			

科目名 生活支援技術Ⅱ (入浴・清潔)			科目時間総数 17時間 (8.5限)	教員名 阿部 真由美
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間	自立に向けた入浴・清潔の保持の介護	オリエンテーション 自立した入浴・清潔保持の授業の位置づけを理解する	
	2時間			
2限	3時間		(座学) 自立した入浴・清潔保持について理解する	
	4時間			
3限	5時間		(座学) 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴と入浴の方法について理解する	
	6時間			
4限	7時間		(座学) 清拭・部分浴について学ぶ 陰部清拭・・・人形用いて学ぶ	
	8時間			
5限	9時間		(演習) ベッド上での洗髪を理解する。	
	10時間			
6限	11時間		(演習) 全身清拭、部分浴・・・足浴、手浴を理解する	
	12時間			
7限	13時間		(演習) 特殊浴槽での入浴介助を理解する	
	14時間			
8限	15時間		(演習) 特殊浴槽での入浴介助を理解する	
	16時間			
0.5限	17時間		まとめ	

科目名			科目時間総数	教員名
生活支援技術Ⅱ（身じたく）			22時間（11限）	阿部 真由美
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間	自立に向けた身支度の介護	オリエンテーション	
	2時間		自律した身支度の一連の流れを理解する	
2限	3時間		利用者の状態に応じた身支度について理解する。	
	4時間			
3限	5時間		(座)耳の清潔の介助・化粧・口腔ケアについて理解する	
	6時間		(演)洗顔の介助、整髪の介助、髭剃り・爪の手入れの介助	
4限	7時間		(座)衣類着脱の目的・役割	
	8時間			
5限	9時間		衣服の着脱の介助(前開きパジャマからかぶりパジャマ麻痺あり)	
	10時間			
6限	11時間		パジャマ着替え	
	12時間			
7限	13時間		寝巻の着脱介助	
	14時間			
8限	15時間		寝巻からパジャマへ	
	16時間			
9限	17時間		寝巻からパジャマへ	
	18時間			
10限	19時間		チェックの練習	
	20時間			
11限	21時間		衣服の着脱についてチェック	
	22時間		終了	

科目名		生活支援技術Ⅱ（ベッド）	18時間（9限）	教員名 阿部 真由美
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限	1時間		シーツのたたみ方 敷き方	
	2時間		コーナーづくり（三角）	
2限	3時間		コーナーづくり（四角）	
	4時間		横シーツのさばき方	
3限	5時間		シーツを敷く～横シーツ	
	6時間			
4限	7時間		毛布カバー 足元の処理 スプレット	
	8時間		一連の作業	
5限	9時間		臥床している人がいる状態でのシーツ交換	
	10時間			
6限	11時間		臥床している人がいる状態でのシーツ交換	
	12時間			
7限	13時間		練習	
	14時間			
8限	15時間		練習	
	16時間			
9限	17時間		チェック	
	18時間			

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅱ 【バイタルサイン】		教員名 藤原 基子	
科目時間数 ：17時間（8.5限）		授業の種類 ：講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 ：必修・選択	配当学年 ：1 年次	開講時期 ：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。			
【ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性が身につく、豊かな人間性と心を備えている。 ② 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力が身につく。 3. 基本的な生活習慣とマナーが身につく、社会に協調し責任ある言動が取れる			
【授業全体の内容の概要】 体温、脈拍、呼吸、血圧、意識レベルなどの測定方法とそれらから得られる情報を学びとする。			
【授業における達成課題】 1. 健康状態や平常状態の把握ができる。 2. 異常が発見できる。 3. 異常の程度の把握ができる。 4. 演習を通して体温 脈拍 呼吸 血圧測定を一連の流れで測定できる。			
【使用教材・テキスト等】 最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ 中央法規出版			
【使用教室】 ① HR ② 介護実習室 ③ 家政実習室 ④ 視聴覚室 ⑤ PC実習室 ⑥ 接遇実習室 ⑦ その他（ ）			
【評価方法】 筆記試験 40% 実技試験 40% 授業態度（リアクションペーパー等）10% 出席率10%			
【備考】 1. 筆記試験は60点以上が合格とする【評価目安 A：80点以上 B：79～70点 C：69～60点 D：59点以下は不合格】 2. 出席率は本校の基準8割を満たすこと。不足の場合は Dとする。			
【担当教務の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内容】 看護師としての勤務経験			

科目名 介護技術Ⅱ【バイタルサイン】		科目時間総数 17時間（8.5限）	教員名 藤原 基子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 1時間 2時間	身体・精神の健康	平常状態について説明できる バイタルサインや意欲、顔貌、顔色、食欲、行動の観察法や平常状態と違う場合の報告について説明できる	
	健康状態を知る（バイタルサイン）		
2 3時間 4時間	〃	バイタルサインとそのみかたを説明できる	
	〃		
3 5時間 6時間	急変状態について	急変状態を説明できる。急変時の対応と事前の準備を説明できる	
		急変時の報告について説明できる。連絡体制について説明できる	
4 7時間 8時間	演習①	体温、脈拍、呼吸の測定ができる	
5 9時間 10時間	演習②	血圧測定ができる	
6 11時間 12時間	演習③	一連の流れでバイタル測定できる（1回目）	
7 13時間 14時間	演習④	一連の流れでバイタル測定できる（2回目）	
		・正常範囲、異常範囲の判断ができる・正確にスムーズに測定できる	
8 15時間 16時間	実技試験	5分以内でバイタルサインの測定ができ合格できる	
8.5 17時間 18時間	筆記試験	60点以上合格	

授業計画表

介護福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅱ (食事・睡眠・終末期)		教員名 長谷川 江利子	
科目時間数: 14時間(7限)		授業の種類: 講義・演習・実習	
必修・選択の別: 必修・選択	配当学年: 1年次	開講時期: 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 本人主体の生活を継続できるよう尊厳の保持や自立支援を優先し、根拠に基づいた介護を実践するための知識・技術を習得する学習とする。			
【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育てる ② 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を育てる 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれるように育てる			
【授業全体の内容の概要】 安全な食事を提供する(4限) 快適な睡眠時間を確保する(1.5限) 人生の最終段階を受容する(1.5限)			
【授業における達成課題】 ・利用者個人の尊厳を保持しながら利用者が主体的に生活できるように支援し、生きている喜びを実感してもらえよう関りの大切さを理解する ・利用者の状態や症状に応じた安全で安楽な支援ができるように知識や技術を身につけることができる			
	使用教材	出版社	
学生用 教員用参考	生活支援技術Ⅱ	中央法規出版	
【使用教室】 ①. HR ②. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他()			
【評価方法】 出席率 20% 授業態度 80%			
【備考】 授業態度はMCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校の成績評価基準に準じる			
【担当教員の実務経験の有無】 有 無			
【内容】 看護師としての勤務経験			

科目名		科目時間総数 8時間（4限）		教員名 長谷川 江利子	
生活支援技術Ⅱ 食事					
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ			
		主な学習内容と到達目標			
限	時間				
1	1時間	オリエンテーション	食事の意義と目的を理解することができる		
2	2時間	<u>自立に向けた食事の介護</u>	摂食のメカニズムと正しい姿勢について説明できる		
3	3時間		食事に関する利用者の身体状況の観察ができる		
4	4時間		誤嚥・脱水の予防ができる		
3	5時間		寝食分離について説明できる		
	6時間		食事に関する利用者のアセスメント		
			おいしく食べることを支える介護について説明できる		
			他の職種の役割と協働について説明できる		
4	7時間		安全な食事介助の技法（演習）		
	8時間		怖い・不快な介助について理解できる		

科目名 生活支援技術Ⅱ（睡眠）		科目時間総数 3時間（1.5限）	教員名 長谷川 江利子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 1時間 2時間	オリエンテーション <u>自立に向けた休息</u> <u>睡眠の介護</u>	睡眠の意義と目的 睡眠のメカニズムについて理解することができる 不眠について理解できる 安眠のための環境整備を整えることができる 睡眠に関する利用者のアセスメントができる	
1.5 3時間		安眠のための介助 安眠を促す介助の技法を理解することができる 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点を説明することができる 他職種の役割を理解し協働するための知識を身に着けることができる 到達目標：不眠の原因や安眠のためのメカニズムを理解し、 安眠できる環境整備や支援を行うことができる	

科目名 生活支援技術Ⅱ（終末期）		科目時間総数 3時間（1.5限）	教員名 長谷川 江利子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 1時間 2時間	<u>人生の最終段階における 介護</u>	終末期における介護の意義、目的を理解できる ターミナルケア・グリーフケア・トータルペインスピリチュアルペイン等の用語を理解できる 死の受容過程や死にゆく人の気持ちや思いを理解できる 終末期における利用者のアセスメント 医療との連携	
1.5 3時間		終末期・臨終時の介護 異常呼吸について理解できる 死亡の診断は医師のみが行える行為であることを理解できる 死後硬直が始まる前にエンゼルケアを実施することができる 到達目標：死を迎える人とその家族の心の変化について理解し 看取りに携わる者として医療職と連携しながらどのような 終末期を送ってもらおうかを考えることができる。	

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅱ (緊急時対応の知識と技術)		教員名 長谷川 江利子	
科目時間数: 10時間 (5限)		授業の種類: 講義・演習・実習	
必修・選択の別: 必修・選択	配当学年: 1年次	開講時期: 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 1. 事故を予防するとともに、起こりうる状態の変化を予測し、予防策と応急処置に対する心構えをしておく。 2. 傷病者を速やかに救助し、正しい応急手当をして、救命のリレーができる。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育てる 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を育てる 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれるように育てる 【授業全体の内容の概要】 自分の安全を確保したうえで、救助活動に関われるような知識と技術を身に付けられるような授業にします 【授業における達成課題】 緊急時の対応をを安全に適切に実施できる知識と技術を身につけ、確実な技術を提供できる。			
	使用教材	出版社	
学生用 教員用参考	応急手当講習テキスト 第6巻 生活支援技術Ⅰ	一般財団法人 救急振興財団 中央法規出版	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率 20% 授業態度 20% 筆記試験 60%			
【備考】 筆記試験：60点以上が合格〔評価目安 A:80点以上、B:79点～70点、C:69点～60点、D:59点以下（不合格）〕 授業態度はMCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校の成績評価基準に準じる			
【担当教員の実務経験の有無】 有 無			
【内 容】 看護師としての勤務経験			

科目名 生活支援技術Ⅱ (緊急時対応の知識と技術)		科目時間総数 10時間 (5限)	教員名 長谷川 江利子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
限	時間		
1	1 2	オリエンテーション <u>生活支援の理解</u>	授業の位置づけの理解 利用者の心身の安全を守り、安心、安楽な生活を支援する事ができる 万一の事故に備えて応急手当のポイントを習得する。 救助者の心構えについて理解し説明できる 救急法の原則について説明できる 到達目標：救急法の原則や心構えについて理解できるようになる
2	3 4	応急処置・緊急時対応 の実際	直ちに手当が必要な6項目について理解し、説明できる (意識障害・呼吸停止・心停止・大出血・ひどい熱傷・気道内異物) ショック・安楽な体位・搬送法・救急車の要請の仕方について 理解し説明できる 到達目標：事故発生時、適切な対応で救急車を要請できる
3 4 5	5 6 7 8 9 10	緊急時の対応について	高齢者に起こりやすい主な事故とその予防の視点を学ぶ 緊急時における連携のあり方を理解し説明できる ・想定される事故と予防の視点 ① 外傷について ② 止血について ③ 特殊なけがについて ④ 骨折について ⑤ R I C E の処置について ⑥ 熱傷について ⑦ 気道内異物について 到達目標：事故発生時、落ち着いて適切な対応と処置ができる
			筆記試験実施

授業計画表

介護福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	生活支援技術Ⅱ		教員名	竹内愛美	
科目時間数	30時間（ 15限）		授 業 の 種 類	講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別	必修・選択	配当学年	2年次	開講時期	前期・後期・集中
〔授業の目的・ねらい〕 知的・精神・高次脳機能・発達障害に応じた介護知識の習得。 障害が生み出される構造と、生活上の困りごとを理解し、生活全般の支援のあり方について学ぶ。 障害をもつ人が社会生活上であう多様な社会的障壁とその解消に必要なことについて理解する。 〔学科ディプロマポリシーとの関連〕 1. 相手の立場に立てる感受性を身に付け、豊かな人間性と心を育む ②. 人間と生活を総合的に理解し、個性性を尊重した生活支援を実践できる能力を身に付ける。 3. 基本的な生活習慣とマナーを身に付け、社会に協調し責任ある言動が取れる。 〔授業全体の内容の概要〕 各障害・疾病の具体的な支援内容、支援方法について学ぶ 各障害の臨床的理解に限らず、年齢・性別など障害の多様な捉え方や社会・生活環境から見た障害の理解など、事例を掲げ障害者にとってより良い生活環境やそれを実現するために介護者として求められる知識や技術について学ぶ 〔授業における達成課題〕 現代社会における「障害の捉え方の多様性」について理解を深め、地域共生社会の実現に向け、対象となる障害児者一人一人にあった介護のあり方について自身で考えることができるようになる。					
	使用教材			出版社	
学生用	最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ 第2版			中央法規出版株式会社	
教員参考用					
【使用教室】					
1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室					
5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）					
【評価方法】					
出席率 10% 授業態度 10% レポート 20% 試験 60%					
【備 考】					
【担当教員の実務経験の有無】					
有 ・ 無					
【内 容】障害者施設での実務経験					

科目名 生活支援技術Ⅱ		科目時間総数 30 時間(15 限)	教員名 竹内愛美
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	知的障害に応じた介護	知的障害について理解できる。 知的障害者の困りごとについて理解する。 知的障害者の支援方法が分かる。	
2限 3時間 4時間	精神障害に応じた介護	統合失調症について理解できる。 統合失調症の困りごとについて理解する。 統合失調症の支援方法が分かる。	
3限 5時間 6時間	精神障害に応じた介護	気分障害について理解できる。 気分障害者の困りごとについて理解する。 気分障害者の支援方法が分かる。	
4限 7時間 8時間	精神障害に応じた介護	精神障害について理解できる。 精神障害者の困りごとについて理解する。 精神障害者の支援方法が分かる。	
5限 9時間 10時間	高次脳機能障害に応じた介護	小テスト 高次脳機能障害について理解できる。	
6限 11時間 12時間	高次脳機能障害に応じた介護	高次脳機能障害者の困りごとについて理解する。 高次脳機能障害者の支援方法が分かる。	
7限 13時間 14時間	発達障害に応じた介護	発達障害について理解できる。 発達障害の困りごとについて理解する。 発達障害の支援方法が分かる。	
8限 15時間 16時間	ALSに応じた介護	小テスト ALSについて理解できる。	
9限 17時間 18時間	ALSに応じた介護 パーキンソン病に応じた介護	ALSの困りごとについて理解する。 パーキンソン病について理解できる。 パーキンソン病の困りごとについて理解する。	
10限 19時間 20時間	筋ジストロフィーに応じた介護	筋ジスの困りごとについて理解する。 筋ジスの支援方法が分かる。	
11限 21時間 22時間	悪性関節リウマチに応じた介護	悪性関節リウマチについて理解できる。 悪性関節リウマチの困りごとについて理解する。 悪性関節リウマチの支援方法が分かる。	
12限 23時間 24時間	DVD	梅切らぬバカ 感想 テスト対策	
13限 25時間 26時間	DVD	梅切らぬバカ 感想 テスト対策	
14限 27時間 28時間	試験/試験	試験勉強後、期末テスト	
15限 29時間 30時間	解答・解説	期末テスト・振り返り・レポート	

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅱ【内部障害】		教員名 藤原 基子	
科目時間数 : 40時間 (20限)		授業の種類 : 講義・演習・実習	
必修・選択の別 : 必修・選択	配当学年 : 2年次	開講時期 : 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする人の様々な状況を理解し、その障害に合わせた適切な知識を習得し生活を支援する方法及び留意点を理解する。			
【ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性が身につく、豊かな人間性と心を備えている。 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力が身につく。 3. 基本的な生活習慣とマナーが身につく、社会に協調し責任ある言動が取れる			
【授業全体の内容の概要】 内部障害（心臓 腎臓 呼吸器 膀胱直腸 肝臓）視覚・聴覚・盲ろう 等の様々な障害について理解し、適切な生活支援と自立に向けた介護が実践できる方法を習得する。			
【授業における達成課題】 利用者が主体的に生活できるよう支援し、状態や症状に応じた介護が提供できる。			
【使用教材・テキスト等】 最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ 中央法規出版			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 筆記試験 40% 授業態度20% 出席率20% 小テスト20%			
【備考】 1. 筆記試験は60点以上が合格とする【評価目安 A：80点以上 B：79～70点 C：69～60点 D：59点以下は不合格】 2. 出席率は本校の基準8割を満たすこと。不足の場合は Dとする。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 看護師としての勤務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
生活支援技術Ⅱ【内部障害】		40時間（20限）	藤原 基子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 1時間 2時間	オリエンテーション 心臓機能障害に応じた介護	心臓機能障害について医学的心理を理解できる	
2 3時間 4時間	〃 〃	〃 〃 生活上の困りごと困りごと（観察の視点）説明できる	
3 5時間 6時間	〃 〃 事例で学ぶ	〃 支援の展開について説明できる 心臓機能障害に応じた生活支援について説明できる	
4 7時間 8時間	呼吸機能障害に応じた介護 〃	呼吸器機能障害の理解できる 〃 生活上の困りごと困りごと（観察の視点）説明できる	
5 9時間 10時間	〃 〃	〃 支援の展開について理解できる 〃 事例で学ぶ 呼吸器機能障害に応じた生活支援について説明できる	
6 11時間 12時間	腎臓機能障害に応じた介護 〃	腎臓機能を理解できる 〃 生活上の困りごと困りごと（観察の視点）説明できる	
7 13時間 14時間	〃 〃	〃 支援の展開について理解できる 〃 事例で学ぶ、腎臓機能障害に応じた生活支援について説明できる	
8 15時間 16時間	膀胱直腸機能障害に応じた介護 〃	膀胱・直腸障害を理解できる 〃 生活上の困りごと困りごと（観察の視点）説明できる	
9 17時間 18時間	〃 〃	〃 支援の展開について理解できる 〃 事例で学ぶ 膀胱直腸障害に応じた生活支援について説明できる	
10 19時間 20時間	小腸機能障害に応じた介護 〃	小腸機能障害を理解できる 〃 生活上の困りごと困りごと（観察の視点）について説明できる	
11 21時間 22時間	〃 〃	〃 支援の展開について理解できる 〃 事例で学ぶ、小腸機能障害に応じた生活支援について説明できる	
12 23時間 24時間	HIVによる免疫機能障害に応じた介護 〃	HIV感染症の理解ができる	
13 25時間 26時間	〃 〃	〃 生活上の困りごと困りごと（観察の視点）説明できる 〃 支援の展開について理解できる	
14 27時間 28時間	〃 肝臓機能障害に応じた介護	〃 事例で学ぶHIV感染症に応じた生活支援について説明できる 肝臓機能障害の理解ができる	
15 29時間 30時間	〃 〃	肝臓機能障害の生活上の困りごと（観察の視点）について説明できる	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16	31時間 //	// 支援の展開について理解できる
	32時間 //	// 事例で学ぶ肝臓障害に応じた生活支援について説明できる
17	33時間 演習	人工ペースメーカーを使用している人への理解できる
	34時間 //	呼吸器機能障害のある人への理解できる
18	35時間 //	腎臓機能障害・肝臓機能障害のある人の理解できる
	36時間 //	膀胱・直腸・小腸機能障害のある人の理解できる
19	37時間	総まとめ
	38時間	テスト対策
20	39時間	筆記試験（60点以上合格とする）
	40時間	答え合わせ

授業計画表

介護福祉学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護過程Ⅰ		教員名 湊 和美	
科目時間数： 75時間（37.5限）		授業の種類： <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： <u>必修</u> ・ 選択	配当学年： 1, 2年	開講時期： <u>前期・後期</u> ・ 集中	
〔授業の目的・ねらい〕 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む <u>2.</u> 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 〔授業全体の内容の概要〕 介護過程の意義と目的について学び「アセスメント」「計画の立案」「実施」「評価」の4つのプロセスについて基礎的な知識を身につける。プロセスごとに事例を用いた演習をし、実際に介護過程を展開する方法を学ぶ 〔授業における達成課題〕 適切に介護過程を展開できる力を養い、介護福祉士としてチームで利用者の生活を支えることの重要性と役割について理解を深める。演習及び実習において介護過程の展開を実践できるようになる			
	使用テキスト・参考文献	出版社	
学生用	最新・介護福祉士養成講座		
教員参考用	第9巻 介護過程（第2版）	中央法規出版	
	介護福祉用語辞典	中央法規出版	
【使用教室】 1. <u>HR</u> 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率 5% 授業態度 20% 忘れ物 5% 期末試験 70% ※筆記試験は60点以上を合格とする			
【備考】 期末試験（筆記試験）は60点以上を合格とする			
【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無			
【内 容】 介護福祉士としての勤務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
介護過程 I		75時間 (37.5限)	湊 和美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限 ～ 6 限	1 時間 ～ 12 時間 (1年次) オリエンテーション <u>介護過程の意義と基礎的理解</u>	授業の進め方、受け方、科目の位置づけ、評価方法を理解し、学びの準備を進める 介護過程とは ・ 介護過程の意義、目的について学ぶ ・ 介護過程の展開（流れ）について説明できるようになる ・ ICFの考え方について説明できるようになる	
7 限 ～ 9 限	1 時間 ～ 13 時間	介護過程の理解 ・ アセスメント（情報収集）の必要性について学ぶ 【実習前演習】 （仮）情報収集の第1段階「見るポイント」について	
10 限 ～ 15 限	1 時間 ～ 30 時間	・ アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）の思考の方法について学ぶ ・ 個別ケアの必要性について述べることができる 試験・解説	
1 限 ～ 10 限	1 時間 ～ 20 時間	(2年次) ・ 介護計画の意義を理解する ・ 介護目標の設定から立案までのポイントを述べることができる ・ 実施における留意点を学ぶ ・ 実施後の記録の意義と留意点を学ぶ ・ 評価の内容と方法、重要性を学ぶ	
11 限 ～ 15 限	2 時間 ～ 31 時間 <u>介護過程とチームアプローチ</u>	介護過程の実践的展開 ・ 事例から介護過程の展開について学ぶ ・ テキスト以外の事例を用いて演習を行う	
16 限 ～ 37 ・5 限	3 時間 ～ 45 時間 <u>介護過程の展開の理解</u>	介護過程とケアマネジメント ・ ケアマネジメントについて学ぶ ・ ケアプランと個別援助計画の関係性について理解する ・ チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解する 利用者の生活と介護過程の展開 ・ 生活することの意味、人生の尊さについて考える ・ 介護福祉士の魅力について考え、自分の介護観を述べるができる	

授業計画表

介護福祉学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護過程Ⅱ		教員名 湊 和美	
科目時間数：75時間（37.5限）		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択の別：必修・選択		配当学年：1, 2年	開講時期：前期・後期
【授業の目的・ねらい】 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 ・学生が主体的に学べるよう、介護実習での事例（受け持ち利用者）から介護過程の展開における演習を行う。また最終実習については実習報告書としてまとめる。 ・卒業実技試験へ向けての取り組み（練習） 【授業における達成課題】 個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解することができる。			
	使用テキスト・参考文献	出版社	
学生用	最新 介護福祉士養成講座		
教員用	介護過程（第2版）	中央法規出版	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率 10% 授業態度 30% 実技試験 30% 事例研究完成 30%			
【備考】 ・事例研究論文の作成とPPによる発表をもって合格とする ・卒業実技試験 減点法により7点以下が合格とする			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 介護福祉士としての勤務経験			

科目名 介護過程Ⅱ		科目時間総数 75時間（37.5限）	教員名 湊 和美
時間数		教育に含むべき事項	主な学習内容
1 限 ～ 7 ・ 5 限	1 時 間 ～ 1 5 時 間	(1年次) <u>介護過程の展開の理解</u>	情報収集とアセスメント ・ 項目ごとのすべき情報収集 ・ 解釈・分析 ・ 生活支援の課題と目標設定 10日間の実習で行った情報収集から解釈・分析につなげる思考過程を身につける
1 限 ～ 1 5 限	1 時 間 ～ 3 0 時 間	(2年次)	事例研究論文の作成 ・ パワーポイント ・ 事例研究発表会にて発表
1 6 限 ～ 3 0 限	～ 3 6 0 時 間 3 1 時 間	(2年次)	卒業実技試験対策（実技練習）

授業計画表

介護福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護総合演習		教員名 湊 和美	
科目時間数： 120時間（60限）		授業の種類： 講義・演習・実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	担当学年： 1, 2年	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 介護実習に向けて、心構え・予備知識・動機付けの準備を行い、介護実習中には実践力を身につけることができるよう指導する。各実習終了後には実習報告会等を通して情報交換し、自己の振り返りを行う。 【授業における達成課題】 ・居宅、通所、入所等の介護施設の概要と利用者の生活像と、介護福祉士の役割を理解できる。 ・基本的コミュニケーション方法やマナー、記録の取り方などを身につける。 ・実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を明確化し、次回の実習や就職で活かすことができる。			
	使用教材	出版社	
学生用	介護実習で困らないためのQ & A	中央法規出版	
教員用	介護福祉用語辞典	中央法規出版	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率 70% 授業態度 20% 提出物 10%			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 介護福祉士としての勤務経験			

科目名		科目時間総数 120時間 (60限)	教員名 湊 和美
介護総合演習		主な学習内容と到達目標	
時間数	教育に含むべき事項・テーマ		
1限 ～ 9限	1時間 ～ 23時間 オリエンテーション 知識と技術の統合	授業の位置づけの理解・実習の意義と目的について学ぶ 実習Ⅰ－①／事前指導 実習配置発表⇒自己紹介書書き 実習Ⅰ目標・目的について理解する 施設理解（特別養護老人ホーム・介護老人保健施設について知る） 実習の心構え・マナー・接遇について学ぶ 記録(施設概要・日誌)の書き方を身につける	
0.5限		事前訪問	
10限 11限		実習Ⅰ－①／事後指導 ⇒お礼状書き 実習の振り返り	
1限 ～ 11限	1時間 ～ 27時間	実習Ⅰ－②,Ⅱ－1段階／事前指導 施設理解（障がい者支援施設、通所介護・通所リハについて知る） 実習Ⅰ・Ⅱ目標について理解し、個人目標を設定することができる 実習配置発表⇒自己紹介書書き 配布物の説明と各留意点を学ぶ 介護過程の展開（情報収集）方法とアセスメント表（1）の内容や書き方を理解し、実践力を身につける	
0.5限		事前訪問	
12限 13限		実習Ⅰ－②,Ⅱ－1段階／事後指導 ⇒お礼状書き 実習の振り返り	
1限 ～ 3限	1時間 ～ 10時間	実習Ⅰ－③／事前指導 ⇒意義と目的 施設理解（小規模多機能・GH・生活介護事業所・就労支援） 実習目標・多様なサービスの理解 実習配置発表⇒自己紹介書書き 配布物の説明と各留意点を学ぶ	
4限		（帰校日）中間の振り返り	
5限		実習Ⅰ－③／事後指導 ⇒お礼状書き、施設情報のまとめ 実習の振り返り	
1限 ～ 12限	1時間 ～ 31時間	実習Ⅱ－2段階／事前指導 ⇒意義と目的 実習目標について理解し、個人目標を設定する 実習配置発表⇒自己紹介書書き 介護過程の展開（情報収集⇒生活課題の明確化⇒介護計画の立案）方法とアセスメント表(1)(2)、個別介護計画の書き方を学ぶ	

時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
0.5限	1時間		事前訪問
1 1 5 限			実習Ⅱ－2段階／事後指導 ⇒お礼状書き・施設情報のまとめ 記録物・実習の振り返り
1 限 2 ・ 5 限	1時間 5時間		実習Ⅰ－④／事前指導 ⇒訪問介護実習の意義と目的 同行訪問に必要な基本的態度と健康管理について学ぶ 家族への援助・生活支援の方法・関係職種との連携について学ぶ
1 限 9 限	1時間 24時間	介護実践の科学的探究	実習Ⅱ－3段階／事前指導 ⇒意義と目的 実習目標について理解し、個人目標を設定する 実習配置発表⇒自己紹介書書き 介護過程の展開（情報収集⇒生活課題の明確化⇒介護計画の立案）方法とアセスメント表(1)(2)、個別介護計画の書き方の最終確認 個別介護の実施・評価・介護観の書き方を学ぶ 実施の方法・留意点の確認 実習期間中のレクリエーション実施時の留意点
0.5限			事前訪問
1 1 1 0 ・ 5 限			実習Ⅱ－3段階／事後指導 ⇒お礼状書き 実習の振り返り・施設情報のまとめ 介護過程Ⅱ（事例研究）に向けて

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護実習 I		教員名 湊 和美 菊池 伸哉	
科目時間数：136 時間		授業の種類：講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別：必修・選択	配当学年：1, 2年	開講時期：前期・後期・集中	
〔授業の目的・ねらい〕 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 - 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む - 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける - 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 〔授業全体の内容の概要〕 ①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。 ②多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。 ③対象者の生活と地域の関わりや、地域での生活を支える施設・期間の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。 〔授業における達成課題〕 - 様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解することができる。 - 利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。			
	使用教材	出版社	
教員参考用	最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程	中央法規出版	
【実習場所】			
『厚生労働大臣が別に定めるもの』の中で、実習 I の要件に該当する施設			
【評価方法】			
介護実習 I－①②③④それぞれの実習終了後、各施設の実習指導者から評価基準を参考に評価いただき学校として総合的に評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 介護福祉士・社会福祉士としての勤務経験			

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護実習Ⅱ		教員名 湊 和美 菊池 伸哉	
科目時間数： 320 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年： 1, 2年	開講時期： 前期・後期・集中	
〔授業の目的・ねらい〕 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 - 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む - 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける - 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 〔授業全体の内容の概要〕 ①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。 ②多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。 ③対象者の生活と地域の関わりや、地域での生活を支える施設・期間の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。 〔授業における達成課題〕 - 個々の生活リズムや個性を理解し、介護過程を展開させることができる。 - 他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。			
	使用教材	出版社	
教員参考用	最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程	中央法規出版	
【実習場所】 『厚生労働大臣が別に定めるもの』の中で、実習Ⅱの要件に該当する施設			
【評価方法】 介護実習Ⅱ－1段階・2段階・3段階それぞれの実習終了後、各施設の実習指導者に評価基準を参考に評価していただき、学校として総合的に評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内容】 介護福祉士・社会福祉士としての勤務経験			

科目名 実習Ⅰ・Ⅱ		科目時間総数 456 時間	教員名 湊 和美 菊池 伸哉
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
40 時間	実習Ⅰ	・様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解する。 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種（医師、看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士など）協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。	
40 時間	<u>多職種協働の実践</u>	実習Ⅰ－① （１年次の７月、５日間）	
48 時間		実習Ⅰ－② （１年次の１１月、５日間）	
8 時間		実習Ⅰ－③ （１年次の３月、６日間）	
		実習Ⅰ－④ （２年次の夏期休暇もしくは冬期休暇、１日間）	
40 時間	実習Ⅱ	・個々の生活リズムや個性を理解し、介護過程を展開させる。 ・他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。	
120 時間	<u>多職種協働の実践</u>	実習Ⅱ－１段階 （１年次の１１月～、５日間）	
160 時間	<u>地域における生活支援の実践</u>	実習Ⅱ－２段階 （２年次の６月、１５日間）	
		実習Ⅱ－３段階 （２年次の１０月、２０日間）	

授業計画表

介護福祉学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 発達と老化の理解		教員名 宍戸 弘子	
科目時間数 : 60時間 (30限)		授業の種類 : ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : ☒ 必修 ・ 選択	配当学年 : 1年次	開講時期 : ☒ 前期 ・ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする方の個別ケアでは、現在の状況だけでなくこれまでどのような人生を送ってきたのか尊厳をもって理解することが重要である。その基本になる人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化や、老化・疾病が生活に及ぼす影響を学習する。			
【ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性が身につき、豊かな人間性と心を備えている ☒ 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力が身についている 3. 基本的な生活習慣とマナーが身につき、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 ◎人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識をまとめる。 ◎老化にともなう身体的、心理的、社会的な変化とその特徴、高齢者に多くみられる疾患・症状と生活への影響など基礎的な知識をまとめる。 ◎小・中テスト、国家試験問題、グループワークをととして理解の定着・確認をする。			
【授業における達成課題】 ◎人間の成長と発達・「老年期」の発達と成熟について身近な例と結びつけることができる。 ◎老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と高齢者に多い疾病・症状の特徴を説明できる。 ◎健康の維持・増進を含めた生活支援介護の根拠として活かすことができる。 ◎「高齢者」を肯定的にとらえ、尊厳保持や自立支援を踏まえた介護について自分の考えを持つ。			
【使用教材・テキスト等】 最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解(第2版) 中央法規出版			
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 授業態度 10% 出席率 10% 期末試験 80%			
【備考】 筆記試験：60点以上を合格とする 出席率：学校の基準(8割)を満たすこと。			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内容】 看護師としての実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
発達と老化の理解		60時間 (30限)	宍戸 弘子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 限	1時間	人間の成長と発達の基礎的理解 授業のねらい（介護を必要とする方の理解を深めるために）	
4/22	2時間	(第1章) 人間の 成長と発達 の過程を身近な例と結びつけることができる	
2 限	3時間	(第2章) 1節・2節 発達理論とはどのようなものなのか、エリクソン、ピアジェ、バルテスらの	
連休	4時間	発達段階と発達課題 の考え方や特徴がわかる 第1章テスト	
5/13			
3 限	5時間	3節 身体的機能の成長と発達の特徴、また、発達にともなう特徴的な疾病や障害を	
5/20	6時間	身近な例と結びつけることができる エリクソンテスト	
4 限	7時間	4節・5節 心理的機能の発達・社会的発達について、身近な例と結びつけることができる	
5/27	8時間	(ピアジェの発達段階、言語発達、社会的参照、心の理論) ピアジェテスト	
5 限	9時間	老年期の発達と成熟 社会的発達（愛着理論・道徳）について、身近な例と結びつけることができる	
6/3	10時間	(第3章) 1節 老年期の定義 の必要性がわかる（WHO、老人福祉法、老人保健法など） 言語テスト	
6 限	11時間	2節・3節 老化・加齢の定義、老化学説、発達課題を身近な例と結びつけることができる	
6/10	12時間	(老化とは 老年期の発達課題、人格と尊厳・老いの価値)	
7 限	13時間	3節・4節 老年期の発達課題 の特徴を理解し、身近な例と結びつけることができる	
6/17	14時間	(喪失体験、セクシュアリティ) 老年期をめぐる今日的課題	
8 限	15時間	老化に伴うこととからだの 恒常性が低下する老化のしくみを理解し、フレイルを説明できる 第2章テスト	
6/24	16時間	変化と日常生活 (第4章)1節 ロコモ、骨・筋系の変化を理解し、要介護の要因として示すことができる	
9	17時間	脳・神経系の機能の変化を理解し生活への影響を考慮することができる	
7/1	18時間	感覚器系の機能の変化を理解し生活への影響を考慮することができる	
10 限	19時間	感覚器系の機能の変化を理解し生活への影響を考慮することができる	
実習	20時間	血液・循環器の変化を理解し、生活への影響を考慮できる	
7/15			
11 限	21時間	第3章中テスト グループワーク	
7/22	22時間	呼吸器系の変化を理解し、生活への影響を考慮できる	
12 限	23時間	消化器系の変化を理解し、生活への影響を考慮できる	
7/29	24時間	腎・泌尿器系の変化を理解し、生活への影響を考慮できる	
夏休			
13 限	25時間	生殖器系、内分泌・代謝系、免疫系の変化を理解し、生活への影響を考慮できる	
8/26	26時間	2節 認知機能・知覚機能の変化について理解し例を挙げることができる（記憶・知能）	
14 限	27時間	パーソナリティ・サクセスフルエイジングなどを理解し例を示すことができる	
9/2	28時間	マズローの理論、適応機制の特徴を理解し説明できる	
15 限	29時間	3節 社会的変化から課題がわかる エイジズムを基にした尊厳保持の考え方ができる	
9/9	30時間	高齢者の社会的活動の現状と課題、老化理論の考え方 記憶・知能テスト	

科目名 発達と老化の理解		科目時間総数 60時間 (30限)	教員名 宍戸 弘子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
16 限 31時間 9/30 32時間	高齢者と健康 (第5章)	1節	健康長寿の背景、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジング
			第4章1節テスト
17 限 33時間 10/7 34時間		2節	高齢者の症状や疾患の特徴を示すことができる
		3節	骨格系・筋系の疾患を理解し生活上の留意点を挙げることができる
18 限 35時間 10/14 36時間			骨格系・筋系の疾患を理解し生活上の留意点を挙げることができる
			第4章2節テスト
19 限 37時間 10/21 38時間			脳・神経系の疾患を理解し特徴を挙げることができる
20 限 39時間 10/28 40時間			皮膚感覚系の疾患を理解し特徴を挙げることができる
			第4章3節テスト
21 限 41時間 11/4 42時間			循環器系の疾患を理解し特徴と生活上の留意点を挙げることができる
22 限 43時間 11/11 44時間 実習			循環器系の疾患を理解し特徴と生活上の留意点を挙げることができる
			第5章1・2節テスト
23 限 45時間 12/9 46時間			呼吸器系の疾患を理解し特徴と生活上の留意点を挙げることができる
			消化器系の疾患を理解し特徴と生活上の留意点を挙げることができる
24 限 47時間 12/16 48時間 冬休			尿失禁、腎・泌尿器系の疾患を理解し生活上の留意点を挙げることができる
25 限 49時間 1/20 50時間			テスト（第5章3節 消化器まで）
26 限 51時間 1/27 52時間			内分泌系・代謝系の疾患を理解し特徴と生活上の留意点を挙げることができる
27 限 53時間 2/3 54時間			歯・口腔疾患のしくみと特徴を理解しケアの留意点を挙げられる
			悪性新生物の疾患の原因、症状、治療を理解しケア上の参考にできる
28 限 55時間 2/10 56時間			感染症の原因、症状と施設内感染を予防する方法を理解しケアに活かせる
			精神疾患のしくみや特徴を理解し尊厳保持の介護に活かすことができる
29 限 57時間 2/17 58時間			近年多い熱中症、脱水症、貧血のしくみを理解し、早期対応の仕方がわかる
		4節	保健医療職との連携について理解し、演習5-4の自分の考えを示すことができる
30 限 59時間 2/24 60時間			修了テスト（腎～最後までを中心に 全範囲）

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 認知症の理解		教員名 阿部真由美	
科目時間数：60時間（30限）		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択 の別：必修・選択	配当学年：1,2年次	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 認知症の本質や心理状態、認知症特有の症状やケア、取り巻く社会環境等を正しく理解し認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる。認知症の人だけでなく家族を含め支援する人みんなが笑顔で暮らせるようになることが認知症ケアのめざすところであることを理解する。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 認知症ケアの歴史を振り返り、これからのケアの理念について考える。認知症の人の心理、精神状況を理解し、多職種が連携・協働して支える意義を理解する。原因疾患、診断と治療について理解し現在の認知症ケアの実際を学び家族も含めた支援の方法を理解する。また、「認知症になっても地域で暮らす」支援について学びを深める。 【授業における達成課題】 ・認知症を取り巻く状況、ケアの理念・視点について理解することができる。 ・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、さまざまなコミュニケーションの図り方、アプローチの仕方について理解できる。 ・家族支援、制度・サービスについて理解できる。			
	使用教材	出版社	
学生用	最新 介護福祉士養成講座 認知症の理解	中央法規	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率 10% 授業態度 10% 試験 80%			
【備考】 ・筆記試験は60点以上を合格とする。 ・授業態度については、ルーブリック評価を参考にする。			
【担当教員の実務経験の有無】 有・無			
【内容】介護福祉士としての実務経験			

科目名		認知症の理解	科目時間総数 60時間 (30限)	教員名 阿部 真由美
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限	1時間	1年次	オリエンテーション	
	2時間	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症とは何か 紙芝居	
2限	3時間		脳の構造・機能	
	4時間			
3限	5時間		認知症の病理	
	6時間		うつを理解	
4限	7時間	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	認知症の人の心理 心の理解	
	8時間		不安・喪失感・抑うつ状態	
5限	9時間		中核症状の理解	
	10時間		記憶障害・見当識障害・遂行機能障害	
6限	11時間		中核症状の理解	
	12時間		空間認知障害・四角失認・社会脳	
7限	13時間		中核症状の理解	
	14時間		高次機能障害・病識低下・神経症状	
8限	15時間		生活障害の理解	
	16時間		IADL障害・ADL障害・家族との関係・社会参加	
9限	17時間		BPSDの理解	
	18時間		要因と誘因	
10限	19時間		BPSDの理解の理解	
	20時間		主要なB0SDの種類	
11限	21時間	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の診断と重症度判定	
	22時間			
12限	23時間		認知症の原因疾患と症状・生活障害	
	24時間		アルツハイマー型認知症・血管性認知症・レビー小体型認知症	
13限	25時間		認知症の原因疾患と症状・生活障害	
	26時間		前頭側頭型認知症・治療可能な認知症・若年性認知症	
14限	27時間		認知症治療薬	
	28時間			
15限	29時間		認知症予防	
	30時間		テスト	

時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容
16限	31時間	2年次 認知症を取り巻く状況	認知症を取り巻く状況
	32時間		
17限	33時間		認知症ケアの理念と視点
	34時間		理念・現状・視点
18限	35時間		認知症ケアの理念と視点
	36時間		気づきとかかわり
19限	37時間		認知症当事者の視点
	38時間		認知症の人の思い・サポート方法
20限	39時間		認知症の進行
	40時間		初期・中期・後期・終末期
21限	41時間	認知症に伴う生活への 影響と認知症ケア	パーソンセンタードケア
	42時間		
22限	43時間		特性をふまえたアセスメント・ツール
	44時間		センター方式・ひもときシート
23限	45時間		認知症の人とのコミュニケーションとケア
	46時間		BPSDのケア・活動・生きがいのケア
24限	47時間		認知症の人とのコミュニケーションとケア
	48時間		休息と睡眠のケア他
25限	49時間		認知症の人へのアプローチ
	50時間		ユマニチュード・バリデーション・DCM・回想法・聞き書き
26限	51時間		終末期医療と介護 環境づくり
	52時間		終末期の主な課題 環境づくりのポイント
27限	53時間	家族への支援	家族支援
	54時間		支える視点・家族の心理過程と葛藤・レスパイトケア
28限	55時間		介護福祉職への支援
	56時間		職場環境の整備
29限	57時間	連携と協働	認知症の人の地域支援
	58時間		制度・サービス・機関・地域づくり
30限	59時間		多職種連携と協働
	60時間		修了テスト

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 障害の理解		教員名 田代 拓之	
科目時間数 : 40 時間 (20 限)		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : 必修 選択	配当学年 : 1年次	開講時期 : 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 本授業では、介護と医療、そして障害福祉等との連携を踏まえた実践力の向上を目標に、障害のある人の身体機能や心理、特性などを理解し、年度後半に学ぶ、具体的な支援を行う上で理解しておくべき制度や関係機関との連携についての基本となる知識の習得をねらいとする。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 障害の概念や障害者福祉の基本理念と諸制度、そして障害者の心理及び各種障害についてテキストに基づき説明する。また、障害に関する諸制度の運用状況や各種障害を説明するにあたっては、事例を用いながらの説明をするとともに、学生にも主体的に考える機会を提供する。 【授業における達成課題】 ・ 障害の概念、基本理念を理解し説明ができる。 ・ 障害に関する諸制度及び介護保険制度との関係を理解し説明ができる。 ・ 障害者の心理及び各種障がい者の特性と具体的支援方法を理解し、実践に応用することができる。			
	使用教材	出版社	
学生・教員用	最新 介護福祉士養成講座 「障がいの理解」	中央法規	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 授業態度（リアクションペーパー含む）20% 筆記試験80%			
【備考】 ・ 両方合わせて、60%以上の点数を取得することで合格とする。 ・ リアクションペーパー・授業態度については、記述内容及びループリック評価に基づいて評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内容】 障がい児・障がい者施設の支援員、発達障害者支援センター相談員、相談支援事業所での相談支援専門員、障がい者基幹相談支援センター等の実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
障害の理解		40時間 (20限)	田代 拓之
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 限	1時間 2時間	オリエンテーション 障害の概念	○科目のねらいや学習の進め方について理解する。 ○障害に関する概念、障害者の現状、障害者の定義について学ぶ。
2 限	3時間 4時間	障害者福祉の基本理念	○ノーマライゼーションを理解する。 ○リハビリテーションの意義を学ぶ。 ○インクルージョンやその他の重要な理念について学ぶ。
3 限	5時間 6時間	障害者福祉に関連する制度	○障害者福祉に関する歴史を学ぶ。 ○障害者総合支援法に基づくサービスを学ぶ。 ○障がい者に係る法律の概要について学ぶ。
4 限	7時間 8時間	障害者福祉制度と介護保険制度	○障害者福祉制度と介護保険制度の違いを学ぶ。 ○両制度の併用の仕組みについて学ぶ。
5 限	9時間 10時間	障害のある人の心理	○人間の欲求や適応規制について知る。 ○障害受容に影響を与える要因を理解する。 ○障害受容の段階に応じた支援のポイントを理解する。
6 限	11時間 12時間	肢体不自由（運動機能障害）	○肢体不自由の状態を理解する。 ○肢体不自由の特性を理解する。 ○肢体不自由のある人の支援のあり方を理解する。
7 限	13時間 14時間	視覚障害	○視覚障害の状態を理解する。 ○視覚障害の特性を理解する。 ○視覚障害の支援のあり方を理解する。
8 限	15時間 16時間	聴覚・言語障害	○聴覚・言語障害の種類、原因を理解する。 ○聴覚・言語障害（児）の身体的・心理的・社会的側面の特性をとらえたうえで支援方法を理解する。
9 限	17時間 18時間	重複障害（ちょうふくしょうがい）	○重複障害の種類、原因を理解する。 ○重複障害がある人の身体的・心理的・社会的側面の特性をとらえ、支援方法を理解する。
10 限	19時間 20時間	内部障害① ・心臓機能障害 ・前期末試験	○”見えない障害”である内部障害の種類、原因を学ぶ。 ○内部障害の特性に応じた支援とその留意点を理解する。 ○前期末試験の実施

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
-------	---------------	-------------

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
11	限 21時間 22時間	<u>内部障害②</u> ・呼吸機能障害 ・腎臓機能障害	○”見えない障害”である内部障害の種類、原因を学ぶ。 ○内部障害の特性に応じた支援とその留意点を理解する。
12	限 23時間 24時間	<u>内部障害③</u> ・膀胱・直腸機能障害 ・小腸機能障害	○”見えない障害”である内部障害の種類、原因を学ぶ。 ○内部障害の特性に応じた支援とその留意点を理解する。
13	限 25時間 26時間	<u>内部障害④</u> ・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 ・肝機能障害	○”見えない障害”である内部障害の種類、原因を学ぶ。 ○内部障害の特性に応じた支援とその留意点を理解する。
14	限 27時間 28時間	重症心身障害	○重症心身障害のを理解する。 ○重症心身障害者の特性と生活について理解する。 ○重症心身障害者に対する支援の留意点を理解する。
15	限 29時間 30時間	知的障害	○知的障害の状態による意思表示やコミュニケーションの方法について理解する。 ○認知力・生活体験・ライフステージの関係を考慮した支援を学ぶ。
16	限 31時間 32時間	精神障害	○精神障害の種類とその特性について学ぶ。 ○精神障害のある人への支援とその留意点について理解する。 ○医療・福祉サービスを含むさまざまな社会資源を使った幅広い支援について理解する。
17	限 33時間 34時間	高次脳機能障害	○高次脳機能障害の具体的な症状とおもな原因について学ぶ。 ○高次脳機能障害による身体的、心理的側面への影響や生活面への影響を学ぶ。 ○高次脳機能障害の特性に応じた支援とその留意点について学ぶ。
18	限 35時間 36時間	発達障害	○発達障害の特性を理解する。 ○発達障害のある人の生活とその支援を学ぶ。 ○家族、教育、医療との連携のあり方を理解する。
19	限 37時間 38時間	難病	○難病の定義について説明できる。 ○難病に関する基礎的知識を理解できる。 ○難病の人に対するアセスメントの視点と生活支援上の留意点を理解できる。
20	限 39時間 40時間	<u>授業の振り返り</u> <u>後期末試験</u>	○これまでの授業の振り返り。 ○後期末試験の実施。

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 障害の理解		教員名 西山 直輝	
科目時間数： 20時間（10限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別：	必修 選択	配当学年： 1 ～2年次	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得する。			
【ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる			
【授業全体の内容の概要】 地域共生社会の実現に向け、障がい当事者を支える地域のサポート体制の仕組みと社会資源の考え方を理解する。また、家族が抱える課題を家族視点で考え、家族支援について理解する。			
【授業における達成課題】 ・ 障がい当事者を支える地域資源について把握できるようになる ・ 他職種の役割と介護員としての役割の違いについて理解する ・ 家族支援について家族の立場に立って考えられるようになる			
【使用教材・テキスト等】			
学生用 教員用	最新 介護福祉士養成講座 障害の理解	中央法規出版	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率10%・授業態度30%・レポート課題60%で評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 障害者支援施設での勤務経験、社会福祉士			

科目名		科目時間総数	教員名
障害の理解		10時間（5限）	西山 直輝
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1年次			
1限 1時間 2時間	連携と協働	行政機関との連携について理解する	
2限 3時間 4時間	〃	地域自立支援協議会の役割を理解し、連携方法について学ぶ	
3限 5時間 6時間	〃	他職種の役割とその中の介護員としての視点について学ぶ	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	〃	事例を用いて多職種連携について検討する	
2年次			
1限 1時間 2時間	家族への支援	家族の障害受容と受容過程の支援	
2限 3時間 4時間	〃	事例を用いて家族の介護力について検討する	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	〃	家族のレスパイトケアについて事例を用いて検討する	
5限 9時間 10時間	〃	〃	

授業計画表

介護福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 こころとからだのしくみ I		教員名 本宮 宏子									
科目時間数 : 30時間 (15限)		授業の種類 : ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習									
必修・選択の別 : ☒ 必修 選択	配当学年 : 1年次	開講時期 : ☒ 前期 後期・集中									
【授業の目的・ねらい】 脳の仕組みと役割を理解し、からだどころの関係性について理解を深めるとともに、高次機能障害や認知症、精神疾患、発達といった脳機能障害がある方への具体的な支援方法を学ぶ。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 - 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む ☒ 人間と生活を総合的に理解し、個性性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける - 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 脳機能を正しく理解し、行動と関連性を知ることが認知症への理解へとつながる。 【授業における達成課題】 - 脳の仕組みを理解し、行動と脳の関係性について理解できる。 - 脳が障害されることによる種々の症状を知り、具体的な対処方法を説明できる。											
	使用教材	出版社									
学生・教員用	最新 介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ	中央法規出版									
【使用教室】 <table border="0"> <tr> <td>1. ☒ HR</td> <td>2. 介護実習室</td> <td>3. 家政実習室</td> <td>4. 視聴覚室</td> </tr> <tr> <td>5. PC実習室</td> <td>6. 接遇実習室</td> <td>7. その他 ()</td> <td></td> </tr> </table>				1. ☒ HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室	5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
1. ☒ HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室								
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()									
【評価方法】 出席率5% 授業態度5% 筆記試験90%											
【備考】											
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無											
【内容】 看護師としての勤務経験											

科目名		科目時間総数	教員名
こころとからだのしくみ I		30時間 (15限)	本宮 宏子
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
1	限	1時間 2時間	講義の進め方について 健康の定義について理解できる 脳の各部位のしくみを理解できる 〃 〃 ウェルニッケ野、ブローカー野の役割を理解し、失語症の症状を理解する 認知症の中核症状と周辺症状を理解する 発達障害の種類を理解し、利用者が持つ困りごとをアセスメントする視点を理解する 事例を用いてアセスメント実施する 人間の欲求について理解し、マズローの欲求階層説を説明できる 自己実現について、自己実現と尊厳を学び利用者の生きがいを考えられる 内発的・外発的動機付けの役割を理解し、利用者のモチベーションを向上するかかわりについて理解を深める アタッチメント行動や愛着理論について理解し、感情の発達について理解する 今までの授業の振り返りを行い、テストに向けた学習ができる
2	限	3時間 4時間	
3	限	5時間 6時間	
4	限	7時間 8時間	
5	限	9時間 10時間	
6	限	11時間 12時間	
7	限	13時間 14時間	
8	限	15時間 16時間	
9	限	17時間 18時間	
10	限	19時間 20時間	
11	限	21時間 22時間	
12	限	23時間 24時間	
13	限	25時間 26時間	
14	限	27時間 28時間	
15	限	29時間 30時間	

授業計画表

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 こころとからだのしくみⅡ		教員名 本宮 宏子	
科目時間数： 1年次75時間・2年次15時間 (1年次37.5限、2年次7.5限)		授業の種類： 講義・演習・実習	
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年： 1,2年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育む 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力を身につける 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれる 【授業全体の内容の概要】 ①こころとからだの働きに関する基礎知識を学び、こころとからだのしくみが日常生活行動と結びついていることを学ぶ。②①で学んだ知識を基に利用者の日常生活と介護実践を関連付けて学習する。 【授業における達成課題】 ①こころとからだのしくみが生活行動の基盤になっていることを理解できる。 ②加齢に伴う心と身体の変化を学び、日常生活（清潔・食事・排泄・移動・身じたく）の自立支援に必要な知識を深め、日常生活支援に役立てることができる。 ③死生観について理解を深め死を迎えた人とその家族に対する支援の仕方について考えることができる。			
	使用教材	出版社	
学生・教員用	最新・介護福祉士講座 こころとからだのしくみ	中央法規出版	
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他（	）
【評価方法】 出席率5% 授業態度5% 中間試験50% 期末試験40%			
【備考】 評価について、筆記試験の点数によりA（80点以上）、B（79～70点以上）、C（69～60点以上）、D（59点以下）とする。また出席率（80%以上）及び授業態度（ルーブリック評価参考）も評価対象とする。			
【担当教員の実務経験の有無】		有・無	
【内容】 看護師としての勤務経験			

科目名 こころとからだのしくみⅡ（1年次）		科目時間総数 75時間（1年次37.5限）	教員名 本宮 宏子
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
1 限	1時間 2時間	<u>からだのしくみの理解</u>	科目の学習の目的とポイント、授業の進め方について説明を受け、理解する
2 限	3時間 4時間		人体を構成する細胞と染色体について理解する 身体各部の名称を言える
3 限	5時間 6時間		脳の解剖と働きを理解する 末梢神経、特に自律神経の働きについて作用する対象ごとに説明できる
4 限	7時間 8時間		感覚器について解剖とその働きを学ぶ 内臓の場所と名称を言える
5 限	9時間 10時間		呼吸器系の解剖と名称を学び「内呼吸」「外呼吸」について説明できる①
6 限	11時間 12時間		心臓の解剖と名称を学び「大循環」「小循環」について説明できる①
7 限	13時間 14時間		血液、体液、リンパの働きを学ぶ。血液成分について種類と働きを説明できる
8 限	15時間 16時間		振り返り（プリント使用）①
9 限	17時間 18時間		消化管の部位と名称、それぞれの働きを学ぶ泌尿器の部位と名称、それぞれの働きを学ぶ
10 限	19時間 20時間		全身の骨格の場所と名称を言える 骨・関節の動きと働きを学ぶ
11 限	21時間 22時間		全身の筋肉の場所と名称を言える筋肉の働きと筋肉量の減少による影響を学び、減少予防の必要性を理解する
12 限	23時間 24時間		バランス、敏捷性の低下による影響を学び、低下予防の必要性を理解する 転倒の原因を6つあげることができる
13 限	25時間 26時間		運動機能の低下からくる、サルコペニア、ロコモティブ症候群について知る
14 限	27時間 28時間	<u>心と身体の関係を理解する</u>	ホルモンの働きについて理解する①
15 限	29時間 30時間		ホルモンの働きについて理解する②
16 限	31時間 32時間		ホメオスタシスと生命兆候について学ぶ
17 限	33時間 34時間		介護福祉職に必要な薬の知識と他職種連携の必要性について学ぶ
18 限	35時間 36時間	<u>移動に関連したこころとからだのしくみ</u>	移動するための身体のしくみを理解する ボディメカニクスについて説明できる
19 限	37時間 38時間		移動の必要性和効果を説明できる 臥位から立位、歩行するための身体のしくみについて理解する
20 限	39時間 40時間		移動が不自由になる要因を考える 廃用症候群や褥瘡に伴う機能低下について理解する
21 限	41時間 42時間		日常生活の観察のポイントと医療職との連携のポイントを学ぶ 達成度の確認（小テスト）②

時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
22	限	<u>身じたくに関連したところとからだのしくみ</u>	身じたくの必要性和効果を説明できる 身じたくのための心のしくみを理解する 身じたくのための身体のしくみを理解する①【眼】【耳】 身じたくのための身体のしくみを理解する③【鼻、皮膚】【口腔】 機能低下が身じたくに及ぼす影響について説明できる
23	限		日常生活の観察のポイントと医療職との連携のポイントを学ぶ①
24	限		
25	限	<u>食事に関連したところとからだのしくみ</u>	食事の必要性和栄養素について理解する 食事のための心のしくみを理解する 食事のための身体のしくみを理解する ①食事のための身体のしくみを理解する ②「摂取嚥下5分類」の内容を理解し、説明できる 治療食について、内容と適応する疾患について学ぶ
26	限		機能低下が食事に及ぼす影響について説明できる①【精神機能と加齢】
27	限		機能低下が食事に及ぼす影響について説明できる②【病気と障害】
28	限		
29	限		
30	限	<u>入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ</u>	入浴・清潔保持の必要性和効果を説明できる 入浴・清潔保持のための心のしくみを理解する 入浴・清潔保持のための身体のしくみを理解する 機能低下が清潔保持に及ぼす影響について説明できる
31	限		機能低下が清潔保持に及ぼす影響について説明できる
32	限		日常生活の観察のポイントと医療職との連携のポイントを学ぶ① 達成度の確認（小テスト）⑤
33	限		
34	限	<u>排泄に関連したところとからだのしくみ</u>	排泄の必要性和効果を説明できる 排泄のための心のしくみを理解する 排泄のための身体のしくみを理解する
35	限		機能低下が排泄に及ぼす影響について説明できる
36	限		日常生活の観察のポイントと医療職との連携のポイントを学ぶ① 達成度の確認（小テスト）⑥
37	限		
37.5	限		学年末試験（0.5限）

科目名 こころとからだのしくみⅡ（2年次）		科目時間総数 15時間（7.5限）	教員名 本宮 宏子
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
1 限	1時間 2時間	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	休息・睡眠の必要性と効果と説明でき、それに伴う心と体のしくみを理解する。
2 限	3時間 4時間		機能低下が睡眠に及ぼす影響について説明できる。
3 限	5時間 6時間		観察のポイントを挙げ、医療職と連携する必要性を理解する。
4 限	7時間 8時間	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	死の捉え方について考え、自分の死生観を話すことができる。死の受容のプロセスについて説明できる。
5 限	9時間 10時間		①死生観・死のあり方を考える。 ②看取りについて
6 限	11時間 12時間		死のケアに関連する達成度の確認 修了試験 終末期から危篤状態、死後の身体を理解する 観察のポイントを挙げ医療職と連携する必要性を理解する
7 限	13時間		（0.5限）達成度確認（プリント）
8 限	14時間 15時間	2年次振り返り	定期試験（休息・睡眠のしくみ、死のケアのしくみ）

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名		医療的ケア【1年生】		教員名		藤原 基子	
科目時間数：		15時間 (7.5限)		授業の種類：		講義・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別：		必修・選択		配当学年：		1年次	
				開講時期：		前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 介護福祉士が介護の専門職として何故医療的ケアを実施しなければならないのかをしっかりと理解し、そのうえで医療職との連携のもとで医療的ケアを安全かつ適切に実施できるよう必要な基礎的知識・技術を身に着けるための学習とする。							
【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 相手の立場に立てる感受性が身につき、豊かな人間性と心を備えている。 2. 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力が身についている。 3. 基本的な生活習慣とマナーが身につき、社会に協調し責任ある言動が取れる							
【授業全体の内容の概要】 1. 医療的ケア実施の基礎 1年 15時間 (7.5限)							
【授業における達成課題】 1. 介護職が医療的ケアを実施するようになった背景を制度を通して理解し、説明できる。 2. 医療的ケアを行う介護職の責任と行為範囲について理解し、説明できる。 3. 医療的ケアを安全に適切に実施ができる知識と技術を身につけ、確実な技術を提供できる。							
【使用教材・テキスト等】 使用教材： ○最新 介護福祉士養成講座 医療的ケア 出版社：中央法規 ○新版 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト ○新版 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 《指導者用》 出版社：中央法規							
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()							
【評価方法】 筆記試験40% 授業態度20% 出席率20% 小テスト20%							
【備考】 1. 筆記試験は60点以上が合格とする【評価目安 A：80点以上 B：79～70点 C：69～60点 D：59点以下は不合格】 2. 出席率は本校の基準8割を満たすこと。不足の場合は Dとする。							
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無							
【内容】 看護師としての実務経験							

科目名		科目時間総数	教員名
医療的ケア【1年生】		15時間（7.5限）	藤原 基子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 1時間 2時間	医療的ケアとは 医行為について	介護職の専門的役割について説明できる	
2 3時間 4時間	喀痰吸引等制度（社会福祉、介護福祉士法の改正） 医療ケアと喀痰吸引等の背景	介護福祉士が喀痰吸引等をできる行為、要件について説明できる 介護福祉職等による喀痰吸引等制度と「医療的ケア」について説明できる	
3 5時間 6時間	その他の制度 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施	保健医療に関する制度を説明できる 安全に経管栄養を提供する重要性を説明できる	
4 7時間 8時間	〃 救急蘇生	ヒヤリハット・アクシデントの報告予防策がつながることを説明できる 救急蘇生について説明できる	
5 9時間 10時間	〃 感染予防	救急蘇生法を説明できる 感染予防が理解できる	
6 11時間 12時間	介護福祉職の感染予防 療養環境の清潔、消毒法	職員の健康管理、感染予防法を説明できる 環境整備保持、汚物、医療廃棄物の処理について説明できる	
7 13時間 14時間	消毒と滅菌 健康状態の把握	消毒と滅菌、消毒薬と使用状況の留意点について説明できる 平常状態について説明できる	
8 15時間 16時間	筆記試験	60点以上合格とする	
9 17時間 18時間			
10 19時間 20時間			
11 21時間 22時間			
12 23時間 24時間			
13 25時間 26時間			
14 27時間 28時間			
15 29時間 30時間			

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 医療的ケア【経管栄養】	教員名 藤原 基子
科目時間数： 34時間（17限）	授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年： 2年次 開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 介護福祉士が介護の専門職として何故医療的ケアを実施しなければならないのかをしっかりと理解し、そのうえで医療職との連携のもとで医療的ケアを安全かつ適切に実施できるよう必要な基礎的知識・技術を身に着けるための学習とする。	
（当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性が身につく、豊かな人間性と心を備えている。 ② 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力が身についている。 3. 基本的な生活習慣とマナーが身につく、社会に協調し責任ある言動が取れる	
【授業全体の内容の概要】 1. 経管栄養法〈基礎的知識・実施手順〉 11限 2. 経管栄養 〈演習〉 6限	
【授業における達成課題】 1. 消化器系の役割・機能、消化・吸収のしくみ、経管栄養との関連性を理解し説明できる。 2. 医療的ケアを行う介護職の責任と行為範囲について理解し、説明できる。 3. 医療的ケアを安全に適切に実施ができる知識と技術を身につけ、確実な技術を提供できる。	
【使用教材・テキスト等】 使用教材：最新 介護福祉士養成講座 医療的ケア 出版社：中央法規	
【使用教室】 ①. HR ②. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）	
【評価方法】 筆記試験 40% 実技試験 40% 授業態度（リアクションペーパー等）10% 出席率10%	
【備考】 1. 筆記試験は60点以上が合格とする【評価目安 A：80点以上 B：79～70点 C：69～60点 D：59点以下は不合格】 2. 出席率は本校の基準8割を満たすこと。不足の場合は Dとする。	
3. 演習は各行為毎に5回以上実施し「厚生労働省関連通知にある演習評価基準」で示す手順通りに出来た場合のみ演習の終了を認めることとなっている。（最低でも5回は実施しなければならない）	
【担当教務の実務経験の有無】 有 ・ 無	

【内 容】 看護師としての勤務経験

科目名		科目時間総数	教員名
医療的ケア【経管栄養】		34時間（17限）	藤原 基子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1	1時間 消化器系のしくみと働き	消化器系器官の役割と機能、嚥下のしくみ、消化に関する器官の名称がいえ	
	2時間 消化と吸収	よくある消化器症状について説明できる	
2	3時間 経管栄養法とは	経管栄養が必要な状態を説明できる	
	4時間 経管栄養実施上の留意点	経管栄養のしくみと種類、注入する内容、実施上の留意点について理解できる	
3	5時間 子どもの経管栄養	子どもの経管栄養、必要とする子供、使用する物品・使用方法・留意点を説明できる	
	6時間 経管栄養を受ける利用者と家族の説明と同意	経管栄養を受ける利用者のや家族の気持ちと対応、実施に関する説明と同意について説明できる	
4	7時間 経管栄養に関係する感染と予防	経管栄養を行っている状態の感染予防と口腔ケアの重要性を説明できる	
	8時間 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認	経管栄養による生じる危険の種類と危険防止、医療職との連携のしかた、ヒヤリハット・アクシデントの報告書が書けるいえる	
5	9時間 急変・事故発作時の対応と事前対策	緊急をようする症状、対応、医療職との連携・体制を事前に共有しておくことの重要性と事前対策内容が説明できる	
	10時間 材とその仕組み、清潔の保持	経管栄養の必要物品、種類、しくみ、清潔保持（消毒）、挿入部の消毒について説明できる	
6	11時間 経管栄養の技術と留意点	必要物品の準備・設置方法と留意点が説明できる	
	12時間 //	経管栄養前の利用者の状態・観察内容がいえ	
7	13時間 //	経管栄養前の利用者の準備方法と留意点がいえ	
	14時間 //	経管栄養の実施の流れと注入中の留意点が説明できる	
8	15時間 //	経管栄養実施後、利用者の身体変化の確認事項と医療職への報告の必要性を説明できる	
	16時間 経管栄養にともなうケア	消化機能を促進するケア、体位、口腔内、鼻、胃ろう部（腸ろう部）ケアについて説明できる。	
9	17時間 報告および記録	報告・連絡・記録の意義と記録内容が説明できる	
	18時間	総まとめ	
10	19時間	筆記試験 答え合わせ	
	20時間	演習の説明	
11	21時間 演習	経鼻経管栄養が実施できる	
	22時間 //	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養法えを実施できる	
12	23時間 //	経鼻経管栄養が実施できる	
	24時間 //	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養法えを実施できる	
13	25時間 //	経鼻経管栄養が実施できる	
	26時間 //	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養法えを実施できる	
14	27時間 //	経鼻経管栄養が実施できる	
	28時間 //	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養法えを実施できる	
15	29時間 実技試験	経鼻経管栄養法を実施できる	
	30時間 //	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養法えを実施できる	
16	31時間 //	経鼻経管栄養法を実施できる	
	32時間 //	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養法えを実施できる	

17	33時間	//	経鼻経管栄養・胃ろう経管栄養
	34時間	//	【実技試験の目標】5回連続で安全かつ適切に経管栄養を実施できる

授業計画表

介護福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 医療的ケア（喀痰吸引）		教員名 長谷川 江利子	
科目時間数： 36時間（18限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年：2年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 介護福祉士が介護の専門職として何故医療的ケアを実践しなければならないのかをしっかりと理解し、そのうえで医療職との連携の下で医療的ケアを安全かつ適切に実施できるよう必要な基礎的知識・技術を身につけるための学習とする 【介護福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 相手の立場に立てる感受性を身につけ、豊かな人間性と心を育てる 2. 人間と生活を総合的に理解し、個性を尊重した生活支援を実践できる能力を育てる 3. 基本的な生活習慣とマナーを身につけ、社会に協調し責任ある言動がとれるように育てる 【授業全体の内容の概要】 ①喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）2年 23時間（座学11.5限） ②演習 喀痰吸引6.5限 【授業における達成課題】 ①介護職が医療的ケアを実施するようになった背景を制度を通して理解し、説明できる ②医療的ケアを行う介護職の責任と行為範囲について理解し、説明できる ③医療的ケアを安全に適切に実施できる知識と技術を身につけ、確実な技術を提供できる			
	使用教材	出版社	
学生用	最新介護福祉全書 1 3 医療的ケア	メヂカルフレンド社	
教員用参考	新・介護福祉士養成講座 1 5 医療的ケア	中央法規出版	
	介護職員等のための医療的ケア	全国訪問看護事業協会	
	福祉資格テキスト 医療的ケア	ミネルヴァ書房	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他（ ）	
【評価方法】			
出席率 5 %	授業態度 1 5 %	筆記試験 4 0 %	実技試験 4 0 %
【備 考】			
演習は各行為毎に5回以上実施し「厚生労働省関連通知にある演習評価基準」で示す手順通りにできた場合のみ演習の終了を認めることとなっている。（最低でも5回は実施しなければならない） 筆記試験：60点以上が合格〔評価目安 A:80点以上、B:79点～70点、C:69点～60点、D:59点以下（不合格）〕 出席率：学校の基準（8割）を満たすこと。不足の場合は、Dとする。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 無			
【内 容】 看護師としての勤務経験			

科目名		医療的ケア		科目時間総数	2年 喀痰吸引 36時間（18限）	教員名	長谷川 江利子
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標			
1	限	1時間	【2年】 <u>喀痰吸引</u> (基礎的知識・ 実施手順) 2年次	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 呼吸について			
		2時間		呼吸のしくみと働き			
2	限	3時間		いつもと違う呼吸状態 到達目標：異常呼吸に気づくことができる			
		4時間		喀痰吸引とは			
3	限	5時間		喀痰吸引で用いる器具・機材とそのしくみ・清潔の保持			
		6時間		人工呼吸器と吸引・気管カニューレ内の吸引			
4	限	7時間		人口呼吸器装着者の生活支援上の留意点			
		8時間		子どもの吸引			
5	限	9時間		喀痰吸引に伴うケア 到達目標：吸引の仕組みを理解できる			
		10時間		吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応・説明と同意			
6	限	11時間		到達目標：喀痰吸引を受ける利用者の気持ちに寄り添ったケアができる			
		12時間		呼吸器系の感染と予防			
7	限	13時間		喀痰吸引により生じる危険・事後の安全確認			
		14時間		到達目標：事故発生時スムーズな対応が頭の中でできる			
8	限	15時間		急変・事故発生時の対応			
		16時間		急変・事故発生時の事前対策			
9	限	17時間		報告及び記録			
		18時間		喀痰吸引の実施の手順と留意点			
10	限	19時間		口腔内の喀痰吸引			
		20時間		鼻腔内の喀痰吸引			
				到達目標：口腔内・鼻腔内の吸引の手順を頭の中で実施できる			
				気管カニューレ内部の喀痰吸引			
11	限	21時間		到達目標：気管カニューレ内部からの滅菌操作での吸引手順を頭の中で実施できる			
		22時間		修了筆記試験 答え合わせ			
12	限	23時間					
1	限	1. 2時間	<u>演習</u> 2年次 実技試験	演習 口腔内の喀痰吸引			
2	限	3. 4時間		演習 鼻腔内の喀痰吸引			
3	限	5. 6時間		到達目標：安全に清潔に5回連続口腔内・鼻腔内からの吸引を実施できる			
4	限	7. 8時間		演習 気管カニューレ内部の喀痰吸引			
5	限	9. 10時間		到達目標：5回連続で安全に滅菌操作で気管カニューレ内部からの吸引を実施できる			
6	限	11. 12時間		口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部からの吸引			
6. 5	限	13時間		実技試験			

合計	36時間	【実技試験達成目標】 5回連続で安全かつ適切に喀痰吸引を実施できること
----	------	--